



2024 年度 医学教育共同利用拠点  
医学教育開発研究センター  
年報

岐阜大学

GIFU UNIVERSITY

## はじめに

岐阜大学医学教育開発研究センター（Medical Education Development Center:MEDC）は、2001年に医学教育分野における文部科学省認定の全国共同利用施設として2講座体制で創立し、今年で24年目となりました。皆様のご支援のもと、2010年からは医学教育分野で唯一の教育関係共同利用拠点としての責務を遂行しています。2024年度は、2020年からの拠点第3期事業の最終年度となり、教員と職員の協働や医療者教育に共通の学習ニーズに対応すべく「医療者教育スターターキット」を運用し、FD/SD融合型の医療者教育教職協働 e-learning の構築や教材の共有化を進めてまいりました。おかげさまで岐阜県近隣はもとより遠方の方々まで広くご愛顧いただいております。個人受講者とともに、FDとして各大学など教育機関にもご活用いただいております。ここに御礼申し上げます。

また24年度は、医療者教育を通じた地域医療の活性化を目的とし、高山市のご協力のもと「地域共創型飛騨高山医療者教育学講座」を新たに開講する運びとなりました。初年度として、市民公開講座等による医療介護福祉、及びそれにまつわる住民参加型の教育の啓発活動などが展開されました。引き続き、高山市と連携し地域医療の活性化・DX化を促進していきます。

25年度より、教育関係共同利用拠点として第4期計画が認可されました。日本の医療者教育をより進化させるべく、新たなミッションに取り組んでまいります。

また卒前教育にも力を注いでおり、MEDC所属の教員は多くの社会医学系の授業を担当しています。2020年に設立された東海国立大学機構のなかで、名古屋大学との更なる連携を深め、カリキュラムの改編等の役割も担っています。技能学習の場としてご活用いただいているスキルラボは、学内の様々な講座のご協力を賜りながら継続的に取り組めており、協力先の皆様方には心より厚く御礼申し上げます。未来ある学生の医療者としての土台づくりとなる学部授業において、対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせ、社会が求める医療者を目指した教育内容を探索していきます。

拠点活動とは別に、医療者教育の専門知識を豊富に有する優れた人材育成を目的として、全国初の医療者教育学修士課程が設立されてから5年目となり、令和6年4月には5期生6名を新たな入学生として迎え入れることができました。卒業生が修了者マスターとして、全国の医療者教育のオピニオンリーダーとして活躍しています。医療者教育学の普及のため、学会活動などを通じて尽力している卒業生の姿を見ることは教育者冥利に尽きます。修了生同士や本センターとのつながりを、より一層深くしていけるよう模索してまいります。

AI 共生時代を迎え、デジタル技術と AI の急速な進化は社会に大きな影響を与え続けており、医療・教育の現場は大きな変革期を迎えています。こうした中、医療者教育にはさらなる発展と実践的な展開が求められます。私たちはこれらの課題に真摯に向き合い、時代の変化を柔軟に受け入れながら、医療者教育の進化とより良い教育の実現を目指し、センター教職員一丸となり日々精進していく所存です。皆様の変わらぬご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。

令和 7 年 5 月

医学教育共同利用拠点

岐阜大学医学教育開発研究センター

センター長 西城 卓也

# 目次

## MEDC 概要 ..... 1

ミッションとビジョン

職員名簿・令和6年度事業報告

業績・新聞記事

## 拠点活動 ..... 32

学びの宙の報告

医療者教育スターキット

医学教育セミナーとワークショップ

アソシエイト会員制度

フェローシッププログラム

機関誌「新しい医学教育の流れ」

教務事務研修

ホームページ/Facebook/X

## 大学院 ..... 40

教育研究の推進

医学系研究科医療者教育学専攻（修士課程）

医学系研究科医科学専攻医学教育学分野（博士課程）

## 卒前教育 ..... 43

医学生の学びを支える

テュートリアル教育

医学概論

テュートリアル選択配属

地域体験実習

医師・患者関係

臨床推論

ライフサイクル

医療英語・国際交流

英語O S C E

里親支援

## 学内活動・学外活動 ..... 54

指導医講習会／ユニットの会

臨床スキル・シミュレーションラボ／岐阜大学模擬患者の会

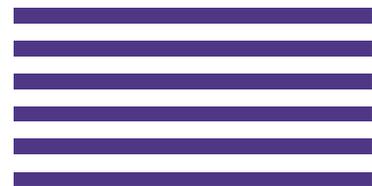
医学教育分野のI R実践

## 沿革

# MEDC概要

# MEDC概要

## —ミッションとビジョン—



### 拠点活動

学びの宙そらと称した各種全国規模の講習会などを定期開催し、段階的に学べるプログラムを通じて、全国の医療者教育者の能力向上と活動の活性化に努めています。

### 大学院教育

岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻の医学教育学博士課程と全国唯一の医療者教育学専攻医療者教育学修士課程で大学院生を指導しています。

### 卒前教育

岐阜大学や名古屋大学医学部などと連携し、卒前の医学教育における学生の支援・各科目指導・学内改革に取り組んでいます。

### 新しい潮流を創る

岐阜大学医学教育開発研究センターは、東海国立大学機構岐阜大学の組織です。2001年に設立され、2001年からは全国共同利用施設として、2010年からは医学教育の共同利用拠点として、文部科学省より認定されるセンターです。我が国の医療系の学習者と指導者のために、新しい医

療者教育を開発・研究・普及させることが、私たちのミッションです。常に改善と改革を意識して、海外のエキスパートとも交流を深めながら、全国のため、岐阜県のため、そして岐阜大学のために、全国の皆様と医療者教育の新しい流れを創り上げて参ります。

## 職 員 名 簿

### 教 員

職 名	氏 名	所 属	備 考
センター長 指導者養成部門長 教 授	西城 卓也	指導者養成部門	部門長 R7.1.1～
副センター長 指導者養成部門長 併 任 講 師	今福 輪太郎	指導者養成部門	～R6.12.31 副センター長・部門長 R6.4.1～12.31
副センター長 教育開発学部門長 併 任 講 師	野村 理	教育開発学部門	併任講師 R6.6.1～ 副センター長 R7.1.1～
教 授	藤崎 和彦	教育開発学部門	
特 任 教 授	鈴木 康之	指導者養成部門	
特 任 助 教	早川 佳穂	教育開発学部門	

### 兼任教員

職 名	氏 名	所 属 等
准 教 授	川上 ちひろ	大学院医学系研究科医科学専攻医学教育学分野
准 教 授	堀田 亮	保健管理センター

### 客員教員

職 名	氏 名	所 属 等
客員教授	菊川 誠	九州大学大学院医学教育院医学教育学講座准教授
客員准教授	八木 街子	自治医科大学看護学部／看護師特定行為研修センター 准教授
客員准教授	長崎 一哉	筑波大学水戸地域医療センター 講師

### 招聘教員

氏 名	所 属 等	期 間
赤嶺 陽子	大阪市立総合医療センター	
浅川 麻里	Leading HER	R7.2.1～

### 寄附講座教員

氏 名	所 属 等	期 間
高橋 美裕希	地域共創型飛騨高山医療者教育学講座	
鷹羽 律紀	地域共創型飛騨高山医療者教育学講座	

非常勤職員

職名	氏名	備考
事務補佐員	藤井 梨恵子	R6.10.1～
事務補佐員	窪田 恭子	
事務補佐員	阿拉坦娜布其	
派遣職員	高田 晴美	～R6.9.30

事務職員（医学系研究科・医学部教育企画係）

職名	氏名	備考
係長	若井 仁美	
事務補佐員	福田 ゆう	
事務補佐員	伊東 沙弥	～R6.7.31

非常勤講師

氏名	所属
後藤 忠雄	県北西部地域医療センター国保白鳥病院
清水 郁夫	千葉大学大学院医学研究院医学教育学
浅田 義和	自治医科大学医学教育センター
岡崎 史子	新潟大学医学部医学科医学教育センター
齊藤 裕之	山口大学医学部附属病院総合診療部
藤江 里衣子	藤田医科大学医学部医学科医療コミュニケーション
小野 香織	松本大学総合経営学部総合経営学科
梅村 絢美	名古屋大学大学院医学系研究科
春田 淳志	慶応義塾大学医学部医学教育統轄センター
松山 泰	自治医科大学医学教育センター
道信 良子	福井県立大学看護福祉学部
下井 俊典	千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
望月 礼子	鹿児島大学医歯学総合研究科 救急・集中治療医学部門
舩越 拓	東京ベイ・浦安市川医療センター
高橋 慶	医療生協さいたま生活協同組合川口診療所
後藤 亮平	筑波大学医学医療系
廣内 大輔	信州大学教育・学生支援機構
三好 智子	岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）～R6.4.30 京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター R6.5.1～
海野 航平	医療法人かがやき
今福 輪太郎	名古屋市立大学看護学部看護研究推進センター（R7.1.1～）

運営協議会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
伊藤 彰一	千葉大学大学院医学研究院 医学教育学 教授
岡崎 史子	新潟大学医学部医学科 医学教育センター 教授
片岡 仁美	京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター 教授
高橋 誠	北海道大学医学研究院医学教育・国際交流推進センター 教授
武田 裕子	順天堂大学医学教育研究室 教授
渡邊 洋子	新潟大学人文社会科学系（創生学部） 教授
山口 瞬	岐阜大学医学部長 教授
秋山 治彦	岐阜大学医学部附属病院長 教授
古家 琢也	岐阜大学医師育成推進センター長 教授
牛越 博昭	岐阜大学地域医療医学センター 教授

運営委員会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
藤崎 和彦	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
山口 瞬	岐阜大学医学部医学科長 教授
井關 敦子	岐阜大学医学部看護学科長 教授
秋山 治彦	岐阜大学医学部附属病院長 教授
森 龍太郎	岐阜大学医学部附属病院医療情報部長 准教授
大倉 宏之	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
任 書晃	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
佐藤 忠	岐阜大学医学系研究科・医学部 事務長

# 令和6年度事業報告

## ●実施事業関係

### ①MEDCフェローシップ

#### コース名：メドギフト2024

事前課題：3月4日(月)～3月29日(金)、自己学習、eラーニング

キックオフオンラインミーティング：4月1日(月) 17時～19時 Zoom

自己紹介、事前課題ディスカッション

セッション1：4月1日～4月14日、eラーニング

学習者はどのように学んでいるのか？－やる気、関わり、深い学び－

セッション2：4月15日～4月28日、eラーニング

教育者は学びをどのように捉えるべきか？－学習者の評価のあり方－

セッション3：5月6日～5月19日、eラーニング

教育プログラムをデザインする－魅力あるコースの構築－

オンラインワークショップ：5月31日(金) 17時～20時 Zoom

振り返り、仲間とともに考え、まとめ

対象：教員、医療従事者など

期間：3月4日(月)～5月31日(金)

参加者数：18人

### ②医学教育セミナーとワークショップ

#### 第88回医学教育セミナーとワークショップ(Web開催)

実施日：5月22日(水)～24日(金)、オンラインにて開催

(第25回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修併催)

- 内容：
- ・Webinar 非認知能力から見た医療系教育への示唆
  - ・WS-1 学生の社会的情動的スキルを育むアプローチを考える  
～Dephiアプローチ入門～
  - ・WS-2 コンセンサスを科学する
  - ・WS-3 学習ポートフォリオ評価：基本と現状(教務事務職員研修共同企画)
  - ・WS-4 Reviving Zombies ～埋もれているゾンビ研究を論文化しよう～

参加者数：185人(内 講師20人)

#### 第89回医学教育セミナーとワークショップin 愛知医科大学大学共催

実施日：10月26日(土)

- 内容：
- ・Seminar ランチョンセミナー 医学部におけるアントレプレナーシップ教育
  - ・WS-1 医師や多職種と診療看護師(NP)が協働するための組織づくり
  - ・WS-2 医療者の職種間コミュニケーションを育む卒後教育
  - ・WS-3 カリキュラム評価について各大学のIR事例を用いて議論しよう  
－第7回医療系IR友の会実践会－
  - ・WS-4 医療系大学におけるアントレプレナーシップ教育について考えよう
  - ・WS-5 専門家ではないからこそできる「安全な医療」の本質観取
  - ・WS-6 学習者のやる気を引出すco-creation(共創)のすすめ

- ・WS-7 医療者教育での脱出ゲーム活用方略：事例を元にした設計・改善
- ・WS-8 絵心不要！マンガ制作で体験するグラフィック・メディスン

参加者数： 125人（内 講師 43人）

### 第90回医学教育セミナーとワークショップ(Web開催)

実施日：1月23日（木）～24日（金）

内 容：Seminar：科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論

MEDTaaalk：

- ・MEDTaaalk1 カンファレンスの観察社会学
- ・MEDTaaalk2 コミュニケーションを測ること、評価すること
- ・MEDTaaalk3 医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう
- ・MEDTaaalk4 臨床研究コーディネーター（Clinical Research Coordinator1:CRC）のレジリエンス
- ・WS-1 効率よく臨床医学を学ぶカリキュラムの構築  
～もっと臨床を Mehr lbung～
- ・WS-2 Narrativeを活かした学習者支援  
-フィードバックからメンタリングまで-
- ・WS-3 キャリアデザインシミュレーション ビヨンド！  
～系統的キャリア教育を考えてみませんか～
- ・WS-4 歯学教育における災害歯科保健教育の方向性とあり方を考えよう
- ・WS-5 対話型鑑賞で支える多職種連携  
-話し上手でなくてもいい、医療者として必要な対話力を身につけるために-
- ・WS-6 障害のある医療系学生の社会的バリアを考える ～聴覚障害を例に～

参加者数：227人（内 講師37人）

### ③ スターターキット

医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい方を対象としたeラーニングプログラムで、医療者教育学の基本を学ぶことができる。

本年度開催の第25回教務事務研修にて、導入学習や事後学習に活用した。

自己学習者は、自大学等での伝達講習のニーズがあり、大学単位でのFD/SDに活用できるようマネジメント支援を行った。本年度は、北海道大学、新潟リハビリテーション大学、日本歯科大学、金沢医科大学、岐阜大学、京都大学、岡山大学、久留米大学をはじめ10大学で、スターターキットを用いたFD/SDが実施された。

スターターキットの受講登録者は2,000名を超え、全プログラム修了者は728名(R7.3.31現在)となった。

今後はスターターキットをより利用しやすい短い時間の動画集に改変して発信する予定である。

大学単位でのFD/SDの活用の情報発信、マネジメント支援を継続し、多くの方にご活用いただき、さらなる全国展開を目指す。

**④ 第25回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修(Web開催)**

主 催：国立大学医学部長会議常置委員会  
(教育制度・カリキュラムに関する委員会)  
一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
(医学教育委員会・カリキュラム調査専門委員会)

実 施 日：5月22日(水)～23日(木)

内 容：医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、  
医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務  
事務職員としての資質の向上を図ることにより、各国公立大学における円滑な教務  
事務の進展に寄与することを目的として、講義、全体・班別討議等を行い、知識と理  
解を深めた。

教職協働ワークショップ：学習ポートフォリオ評価：基本と現状(第88回医学教育セ  
ミナーとワークショップ共同企画)

参加者数：44人

**⑤ 客員教授等招聘**

**国内客員教授：菊川 誠(九州大学大学院医学教育院医学教育学講座 准教授)**

- ・医療者教育学専攻 講師
- ・医学教育セミナーとワークショップ企画・運営
- ・医療者教育スターターキット

**国内客員准教授：八木街子(自治医科大学看護学部/看護師特定行為研修センター 准教授)**

- ・医療者教育学専攻 講師
- ・医学教育セミナーとワークショップ企画
- ・医療者教育スターターキット

**国内客員准教授：長崎一哉(筑波大学水戸地域医療センター 講師)**

- ・臨床推論 講師
- ・医学教育セミナーとワークショップ企画

**⑥ 初心者向けチューター研修会 (FD)**

ファシリテーションスキルのオンデマンド学習動画  
アクティブラーニングの方法のオンデマンド学習動画

**⑦ 医学教育教材の研究・開発**

**指導者養成部門**

- ・医療指導者のキャリア支援及び教育力の開発

**教育開発部門**

- ・医療者教育の教育法、プログラム及び評価法の開発

**⑧ 学外的対応：各種会議等での講演及び学外へのノウハウ提供**

大学(病院含む)、国内外の医療系教育学会、医師会等に招聘され講演等を実施した。  
遠隔医療教育、多職種連携教育、学習者支援等の多岐にわたる内容を伝達した。  
報道等で広く市民に活動の一端を公開した。

## ●会議開催関係

### 1. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営協議会

	開 催 日
第1回	令和 6年 6月26日(水)

### 2. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営委員会

	開 催 日
第1回	令和 6年 4月17日(水)
第2回	令和 6年 5月20日(月)
第3回	令和 6年 8月26日(月)
第4回	令和 7年 1月27日(月)
第5回	令和 7年 3月10日(月)

## ●来訪者

期間	所属・分野・役職	氏名	来訪目的
R6.4.18	コンケン大学・学生	Tanyapat Teeranate	表敬訪問
5.17	ノースダコタ大学外科・外科レジデント	柳本 達摩	表敬訪問
5.21	名城大学 薬学部 薬学科・准教授	半谷 眞七子	講演等のご相談
6.3	道北勤医協一条通病院・理事長	鈴木 和仁	表敬訪問
6.25	岩手医科大学・講師	米田 真也	表敬訪問
9.26-9.28	Hogeschool Zuyd Faculty of Occupational Therapy 講師	Inge Speth-Lemmens	表敬訪問
11.16	Universitas Gadjah Mada Faculty of Medicine・准教授	Widyandana Doni	共同研究
R7.1.22	東京科学大学・教育教授	鶴田 潤	各種ご紹介・ご案内
1.22	京都大学・准教授	三好 智子	表敬訪問
2.27	愛知学院大学・准教授	鈴木 一吉	表敬訪問

## 業 績

### 著書（和文）

- 1) 野村理 分担執筆. 子供の救急手技マニュアル.10 章：整形外科系手技 C 固定術の基本(井上信明 編集), 診断と治療社, 東京, 2024, 155-161.
- 2) 野村理 分担執筆. Q-A400- こどもの呼吸のコモんなギモンに答える本(川口敦, 小田新, 金澤伴幸編集), 診断と治療社, 東京, 2024.
- 3) 川上ちひろ, 田中尚樹. 6 歳から使えるワークブック 3 発達障害の子の性のルール. からだ・こころ・かんけいを育てる 17 のワーク(辻井正次監修,NPO 法人アスペ・エルデの会編), 合同出版株式会社, 東京, 2024, 1-94.
- 4) 川上ちひろ 分担執筆. 特別支援教育研究：性に関する気になる行動がみられる児童生徒への対応. 特集：実践② はじめてみよう 気になるあの行動へのサポート～5 つのケースから「気づく」「わかる」「支える」～, 東洋館出版社, 東京, 2024, No. 805: 12-15.

### 著書（欧文）

なし

### 総説（和文）

- 1) 藤崎和彦. 医療現場に求められるコミュニケーション力の養成. 特集: これからの医師・患者関係. 大阪保険医雑誌 2024; 52(694): 12-15.
- 2) 川上ちひろ, 早川佳穂, 今福輪太郎, 堀田亮, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 藤崎和彦, 西城卓也. 看護職のスキルアップ/キャリアアップの一助に - 岐阜大学医学教育開発研究センターの教育プログラムの紹介. 看護展望 6 2024; Vol.49 No.7: 76-81.
- 3) 大村いづみ, 川上ちひろ. 私のまわりのすてきな看護職 「マルチであれ」と言い聞かせ, 看護を実践する. 看護展望 11 2024; Vol.49 No.13: 8.
- 4) 川上ちひろ. 特集：女性と ASD 自閉症のある女の子・女性の困りごととその対応. かがやき 2025; NO. 972: 6-7.

### 総説（欧文）

- 1) Cesar Orsini, Rintaro Imafuku, Barbara Jennings, Adam Neufeld, Jorge Tricio, Rashmi A. Kusrurkar. What influences clinical educators' motivation to teach? A BEME systematic review and framework synthesis based on self-determination theory: BEME Review No. 90; Medical Teacher 2024: 1-9. DOI: 10.1080/0142159X.2024.2412166.
- 2) Maximilian Andreas Storz, Rintaro Imafuku. Benefits and drawbacks of international medical elective databases in abroad elective research: A narrative review: Advances in Medical Education and Practice 2024; 15: 971-979. DOI: 10.2147/amep.s487142.

- 3) Nobuaki Shime, Taka-aki Nakada, Tomoaki Yatabe, Kazuma Yamakawa, Yoshitaka Aoki, Shigeaki Inoue, Toshiaki Iba, Hiroshi Ogura, Yusuke Kawai, Atsushi Kawaguchi, Tatsuya Kawasaki, Yutaka Kondo, Masaaki Sakuraya, Shunsuke Taito, Kent Doi, Hideki Hashimoto, Yoshitaka Hara, Tatsuma Fukuda, Asako Matsushima, Moritoki Egi, Shigeaki Kushimoto, Takehiko Oami, Kazuya Kikutani, Yuki Kotani, Gen Aikawa, Makoto Aoki, Masayuki Akatsuka, Hideki Asai, Toshikazu Abe, Yu Amemiya, Ryo Ishizawa, Tadashi Ishihara, Tadayoshi Ishimaru, Yusuke Itosu, Hiroyasu Inoue, Hisashi Imahase, Haruki Imura, Naoya Iwasaki, Noritaka Ushio, Masatoshi Uchida, Michiko Uchi, Takeshi Umegaki, Yutaka Umemura, Akira Endo, Marina Oi, Akira Ouchi, Itsuki Osawa, Yoshiyasu Oshima, Kohei Ota, Takanori Ohno, Yohei Okada, Hiromu Okano, Yoshihito Ogawa, Masahiro Kashiura, Daisuke Kasugai, Ken-ichi Kano, Ryo Kamidani, Akira Kawauchi, Sadatoshi Kawakami, Daisuke Kawakami, Yusuke Kawamura, Kenji Kandori, Yuki Kishihara, Sho Kimura, Kenji Kubo, Tomoki Kuribara, Hiroyuki Koami, Shigeru Koba, Takehito Sato, Ren Sato, Yusuke Sawada, Haruka Shida, Tadanaga Shimada, Motohiro Shimizu, Kazushige Shimizu, Takuto Shiraishi, Toru Shinkai, Akihito Tampo, Gaku Sugiura, Kensuke Sugimoto, Hiroshi Sugimoto, Tomohiro Suhara, Motohiro Sekino, Kenji Sonota, Mahoko Taito, Nozomi Takahashi, Jun Takeshita, Chikashi Takeda, Junko Tatsuno, Aiko Tanaka, Masanori Tani, Atsushi Tanikawa, Hao Chen, Takumi Tsuchida, Yusuke Tsutsumi, Takefumi Tsunemitsu, Ryo Deguchi, Kenichi Tetsuhara, Takero Terayama, Yuki Togami, Takaaki Totoki, Yoshinori Tomoda, Shunichiro Nakao, Hiroki Nagasawa, Yasuhisa Nakatani, Nobuto Nakanishi, Norihiro Nishioka, Mitsuaki Nishikimi, Satoko Noguchi, Suguru Nonami, Osamu Nomura, Katsuhiko Hashimoto, Junji Hatakeyama, Yasutaka Hamai, Mayu Hikone, Ryo Hisamune, Tomoya Hirose, Ryota Fuke, Ryo Fujii, Naoki Fujie, Jun Fujinaga, Yoshihisa Fujinami, Sho Fujiwara, Hiraku Funakoshi, Koichiro Homma, Yuto Makino, Hiroshi Matsuura, Ayaka Matsuoka, Tadashi Matsuoka, Yosuke Matsumura, Akito Mizuno, Sohma Miyamoto, Yukari Miyoshi, Satoshi Murata, Teppei Murata, Hiromasa Yakushiji, Shunsuke Yasuo, Kohei Yamada, Hiroyuki Yamada, Ryo Yamamoto, Ryohei Yamamoto, Tetsuya Yumoto, Yuji Yoshida, Shodai Yoshihiro, Satoshi Yoshimura, Jumpei Yoshimura, Hiroshi Yonekura, Yuki Wakabayashi, Takeshi Wada, Shinichi Watanabe, Atsuhiko Ijiri, Kei Ugata, Shuji Uda, Ryuta Onodera, Masaki Takahashi, Satoshi Nakajima, Junta Honda, Tsuguhiro Matsumoto. *The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024. Acute Medicine & Surgery 2025; 12(1).* DOI: 10.1002/ams2.70037.

#### 原著（和文）

- 1) 芳野純, 今福輪太郎, 早川佳穂, 田島嘉人, 西城卓也. 理学療法学生のオンライン協働学習における学びの認識に関する探索的研究. *理学療法科学* 2024; 39(4): 173-179.
- 2) 鈴木康之, 恒川幸司, 武田裕子, 川上ちひろ, 早川佳穂, 今福輪太郎, 西城卓也. 医学生の社会経済的背景に対する市民と医療系教育者の認識. *医学教育* 2024; 55(3): 217-227.
- 3) 堀田亮, 瀬戸山陽子, 川上ちひろ. 医療者教育者における障害学生支援に関する事項の認知度と必要度に関する予備的検討. *医学教育 短報* 2024; 55(3): 229-233.

- 4) 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 堀田亮, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 藤崎和彦, 西城卓也. 社会性と情動の学習(SEL)とは何か. 医学教育 2024; 55(4): 301-308.
- 5) 藤江里衣子, 川上ちひろ, 西城卓也. 医療系教育機関・医療機関における様々な実践～情動知能(EI)とリーダーシップ～. 医学教育 2024; 55(4): 335-341.
- 6) 高橋慶, 川上ちひろ, 西城卓也. 実践報告 ―新たな試み― 臨床推論と生物心理社会モデルを織り交ぜた新たな授業モデルの開発 ―生活者をみる姿勢を育成するための実証主義と現象学の融合―. 医学教育 2024; 55(5): 423-430.
- 7) 吉澤悠喜, 川上ちひろ, 芳野純, 木村大輔, 西城卓也. 論証モデルに基づいた理学療法士の症例報告会における議論の分析. 理学療法科学 2025; 52(1): 28-36.
- 8) 鈴木康之, 恒川幸司, 武田裕子, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 西城卓也. 医学生 of 職業選択動機と背景要因の解析：教職志望学生向け尺度の医学生への適用. 医学教育 2025; 56(1): 1-10.
- 9) 田原卓矢, 早川佳穂, 西城卓也, 鈴木康之, 今福輪太郎. 大学病院での臨床工学技士の指導者に求められる資質・能力に関する質的研究. 医療の質・安全学会誌 2025; 20 (1): 12-23.

#### 原著 (欧文)

- 1) Osamu Nomura, Yuki Soma, Makoto Kaneko. Utility of the rurality index for Japan for exploring good practice solutions for declining birthrates in rural areas. *Journal of General and Family Medicine* 2024; 25(6): 395-397. DOI: 10.1002/jgf2.714.
- 2) Osamu Nomura, Arisa Aoyagi, Jin Irie, Takeshi Goto, Kana Sugiyama, Hiroyuki Hanada, Yoshiya Ishizawa. Positive emotions for promoting quality improvement of extracorporeal membrane oxygenation therapy for COVID-19: In situ interprofessional simulation. *Acute Medicine & Surgery* 2024; 11(1): e70002. DOI: 10.1002/ams2.70002.
- 3) Osamu Nomura, Yuki Soma, Yusuke Ikezaki, Hirofumi Tazoe, Minoru Osanai, Shota Hosokawa, Takakiyo Tsujiguchi, Katsuhiko Ito, Hiroyuki Hanada, Toshiko Tomisawa. Effect of Virtual-Reality-Based Training on Emotions of Medical Students Undertaking Radiation Emergency Medicine: An Educational Experimental Study. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness* 2024; 18: e198(1-6). DOI: 10.1017/dmp.2024.166.
- 4) Osamu Nomura, Hiroyuki Komatsu, Yasushi Matsuyama, Takeshi Onoue, Masatomi Ikusaka, Hitoaki Okazaki, Yasuhiko Konishi. Development of medical knowledge content for problem-solving competencies through dialogue with the undergraduate medical education community in Japan. *MEDICAL TEACHER*. Taylor & Francis 2024; 46(sup1): S61-S66. (ア)DOI: 10.1080/0142159X.2024.2385707.
- 5) Takeshi Onoue, Yoshikazu Asada, Rintaro Imafuku, Seisyo Kou, Hideki Takami, Yuzo Takahashi, Osamu Nomura, Takuya Saiki. Developing competencies relating to information science and technology in Japanese undergraduate medical education. *MEDICAL TEACHER (Taylor & Francis)* 2024, 46(sup1): S31-S37. DOI: 10.1080/0142159X.2024.2385199.
- 6) Yasushi Matsuyama, Osamu Nomura, Sayaka Oikawa, Makoto Kikukawa, Ikuo Shimizu, Harumi Gomi. Competency-based medical education guidelines are context-based: Lessons from national guidelines

in five countries. *MEDICAL TEACHER*. Taylor & Francis 2024; 46(sup1): S38-S45. DOI: 10.1080/0142159X.2024.2351215.

- 7) Hiromi Ida, Rintaro Imafuku, Koji Tsunekawa, Yasuyuki Masaoka, Satoko Fukushima, Takuya Saiki. Exploring the cognitive processes of pharmacy students when writing reflective reports. *REFLECTIVE PRACTICE* 2024, (1-16). DOI: 10.1080/14623943.2024.2424597.
- 8) Yukiko Nagatani, Rintaro Imafuku, Kaho Hayakawa, Yasuyuki Suzuki, Takuya Saiki. Who you are and who you want to be: a pilot study of dental hygiene students' professional identity formation. *BMC Medical Education* 2024; 24(1): 1035.  
<https://bmcmededuc.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12909-024-06027-4>
- 9) Hinako Sudo, Seri Kojima, Kiko Hayashi, Sakura Hosoki, Arisu Tanaka, Rintaro Imafuku. Perspectives of female medical students and physicians on professional development in Japan. *Education for Health* 2024; 37(4): 389-395. DOI: 10.62694/efh.2024.120.
- 10) Osamu Nomura, Momoka Sunohara, Haruko Akatsu, Jeffrey Wiseman, Susanne P. Lajoie. Unraveling “Feeling Bad” in a Non-Western Culture: Achievement Emotions in Japanese Medical Students. *Medical Science Educator* 2025. DOI: <https://doi.org/10.1007/s40670-025-02296-w>.
- 11) Taka-aki Mori, Osamu Nomura, Shun Kishibe. Characteristics of pediatric hand and foot tendon injuries in a Japanese pediatric emergency department. *Pediatrics International* 2025; 67(1).  
<https://doi.org/10.1111/ped.15862>.
- 12) Saki Suzuki, Rintaro Imafuku, Chihiro Kawakami, Yuriko Abe, Eric H Jago, Chiaki Hidai, Takuya Saiki. Perceptions and Motivations of Japanese Medical Students Regarding Course Evaluations: A Cultural Perspective. *Advances in Medical Education and Practice* 2025; 16:145-155. DOI: <https://doi.org/10.2147/amep.s499021>.
- 13) Megumi Yasuda, Takuya Saiki, Chihiro Kawakami, Rintaro Imafuku. Community Preceptors' Views on the Training Needs of Medical Students and Factors Affecting Medical Education in the Community Setting: An Exploratory Study. *Journal of Medical Education and Curricular Development* 2025; 12: 1-13. DOI: 10.1177/23821205251317152.

#### その他論文・報告書

- 1) 西城卓也, 今福輪太郎. 巻頭言 非認知能力とは何か? どう涵養するか?. *医学教育* 2024; 55(4): 293.
- 2) 西城卓也, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 早川佳穂, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 久保田伊代, 平井克城, 牛越博昭. 森の生態系を見る医学教育者 医学教育部門のスタッフ養成の発展にむけた文献調査. *医学教育* 2024; 55(suppl.): 325.
- 3) 鈴木康之, 恒川幸司, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 武田裕子, 西城卓也. 医学生の職業選択動機に関する分析. *医学教育* 2024; 55(suppl.): 313.
- 4) 鈴木康之, 武田裕子. **First-generation College Student** と社会経済格差. *医学教育 提示版 (意見)* 2024; 55(3): 266.
- 5) 久保田伊代, 伊藤貴康, 平井克城, 上村小雪, 磯部真倫, 西城卓也, 牛越博昭. ホログラフィック患者での臨床的推論 没入型の学習体験. *医学教育* 2024; 55(suppl.): 219.

- 6) 赤坂真奈美, 石毛崇, 田中朋美, 内山温, 太田和秀, 吉兼由佳子, 金城紀子, 赤嶺陽子, 加藤英子, 山田寛之, 江口真理子, 岡田賢, 難波範行, 新田雅彦, 長祐子, 野上和剛, 岡崎三枝子, 鈴木康之, 石崎優子, 大嶋勇成. 日本小児科学会ダイバーシティ・キャリア形成(旧男女共同参画推進)委員会報告. 第126回日本小児科学会学術集会特別企画「これからの小児医療に求められるダイバーシティの推進ーエビデンスに基づき土壌作りは学生時代からー」Café 企画開催報告. 日本小児科学会雑誌 2024; 128: 659-667.
- 7) 鈴木康之. 小児科医の果たす役割 学会の全国調査から. 小児科診療 UP-to-DATE 2024; 64: 4-9.
- 8) 操奈美, 小原奈津子, 白木育美, 小川武則, 牛越博昭, 今福輪太郎. シナリオロールプレイで学ぶ男女共同参画: 臨床実習少人数グループで実践した授業の報告. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 実践報告 2024; 12: 29-35.
- 9) 川上ちひろ. 対応が難しい看護学生/看護師への教育・支援. 日本看護評価学会誌 2024; 14(1): 32-37.
- 10) 川上ちひろ. カモフラージュをして生きる子どもたちを地域で支えるーカモフラージュというレンズを通してみる今の子どもたちー. 日本学校健康相談学会 第21回学術集会抄録集 2025: 12-14.
- 11) 川上ちひろ. 発達障害のある子の性と関係性をどのように教えるのか. LD 研究 一般社団法人日本LD学会 第33回大会特集 Face to Face の関係構築・地域づくり 2025; 34(1): 41-48.

## 研究費

- 1) 研究代表者: 鈴木康之. 我々は将来の医療を誰に託すのか?: 医学部入学者の多様化推進に関する政策的な研究. 2023-2025 年度; 3,300 千円(1,300; 1,100; 900 千円).
- 2) 分担研究者: 西城卓也. 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究 B: マイクロラーニングを活用した若手指導医養成 e ラーニングの開発と効果検証. 2023-2027 年度; 200 千円.
- 3) 研究代表者: 野村理. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究: ウェアラブルデバイスにより学習者と指導者の感情調整機構を明らかにする医学教育研究. 2023-2027 年度; 4,680 千円(260; 1,040; 1820; 1,560 千円).
- 4) 分担研究者: 野村理. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 B: 医療分野におけるへき地尺度を用いた医療の質格差の改善. 2024-2028 年度; 100 千円.
- 5) 分担研究者: 野村理. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C: 看護基礎教育における二次救命処置教育 VR 教育プログラムの開発. 2024-2027 年度; 100 千円.

## 学会等の開催

なし

## 学会招待講演・招待シンポジスト・座長

西城卓也

- 1) 座長; 学習: ICT・オンライン学習/研究・学識. 第56回日本医学教育学会 口演 8, 2024.8.9, 東京.

#### 藤崎和彦

- 1) 座長; Programmatic Assessment を日本でどう実践するかー低学年や臨床実習など, 様々な場面で  
の評価を考えるー. 第 56 回日本医学教育学会 プレコンGRES ワークショップ 6, 2024.8.8, 東京.
- 2) 招待講演; 医療プロフェッショナルリズム教育. 第 9 回日本薬学教育学会大会, 2024.8.17, 東京.
- 3) 座長; 医療コミュニケーションにおける 速さと深さの十ー 臨床推論, 問診場面, 人類学的ケース  
スタディ. 第 3 回日本医療コミュニケーション学会学術集会, 2024.9.28, 横浜市.
- 4) 座長/講演; 看護におけるコミュニケーションの現状. 第 1 回 日本看護コミュニケーション学会学  
術集会, 2024.9.28, 横浜市.
- 5) 招待講演; 薬剤師に求められるアサーティブ・トレーニング. 地域医療の中でより良い多職種連携  
を目指してー在宅医療での多職種協働に対する心理的障壁を緩和する教育プログラム. 2024.10.6,  
名古屋市.
- 6) 招待講演; 医療人育成の現状と展望. 日本歯科医学教育学会 第 14 回歯科医学教育者のためのワー  
クショップ, 幕張国際研修センター, 2024.12.4, 千葉.

#### 鈴木康之

- 1) 招待シンポジスト; 専門医制度における日本小児科学会の対応. 分野別シンポジウム 14 専門医制  
度の現状と課題, 第 127 回日本小児科学会学術集会, 2024. 4.21, 福岡.
- 2) 招待シンポジスト; 医学生の社会経済的背景: 我が国と海外の現状. シンポジウム 入学者選抜にお  
けるダイバーシティ&インクルージョン, 第 56 回日本医学教育学会, 2024.8.9, 東京.
- 3) 招待講演; 医学生選抜に関わる最近の話題. 山梨大学令和 6 年度第 1 回医学部キャンパス教育 FD  
研修会, 2024.10.21, オンライン.

#### 川上ちひろ

- 1) 座長; 医療者養成における教育的な支援とは?ー発達障害の特性を持つ学習者の事例から考える.  
第 56 回日本医学教育学会 ワークショップ 9, 2024.8.9, 東京.
- 2) 座長; ポスター 2P-O 学習者支援: 学習支援(2). 第 56 回日本医学教育学会, 2024.8.10, 東京.

#### 今福輪太郎

- 1) 座長; 医学教育研究の基本を学ぶワークショップ. 第 56 回日本医学教育学会 プレコンGRES ワー  
クショップ 4, 2024.8.8, 東京.
- 2) 座長; 口演 (英語) 2 Learning : communication, interprofessional collaboration, professionalism. 第  
56 回日本医学教育学会, 2024.8.10, 東京.

#### 野村理

- 1) 座長; ポスター(英語)1 Active learning / Clinical skills, simulation / Online learning, ICT / Research.  
第 56 回日本医学教育学会, 2024.8.9, 東京.

## 学会・研究会 一般演題

- 1) 藤崎和彦. 保健指導のコミュニケーション. 大和郡山市保健センター講演, 2024.4.30, 大和郡山市.
- 2) 西城卓也, 川上ちひろ, 早川佳穂, 今福輪太郎, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 堀田亮. 学生の社会的情動のスキルを育むアプローチを考える. 第 88 回医学教育セミナーとワークショップ WS-1, 2024.5.22, 岐阜.
- 3) 猪田宏美, 油川ひとみ, 藤崎和彦, 早川佳穂. 学習ポートフォリオ評価: 基本と現状. 第 88 回医学教育セミナーとワークショップ WS-3 (国公立大学医学部・歯学部教育事務職員研修共同企画), 2024.5.23, 岐阜.
- 4) 山口佳子, 川上ちひろ, 原田芳巳, 西城卓也. 領域別専門医がプライマリ・ケア医へ転向目的に経験した, 総合診療科外来診療での学びに関する探索的研究. JPCA, 2024.6.7-9, 浜松.
- 5) 藤崎和彦. 都市計画と健康づくりのエビデンス. 大和郡山市すこやか 21 計画行政部会, 2024.6.14, 大和郡山市.
- 6) 藤崎和彦. 医学教育改革とその先へ. 2024 年度東海フラテ会講演, 2024.7.3, 名古屋市.
- 7) 藤崎和彦. 一次予防としての健康づくりの意義と今後の取り組みについて. 大和郡山市すこやか 21 推進委員会, 2024.8.5, 大和郡山市.
- 8) 鈴木康之. 医学生の職業選択動機に関する分析. 第 56 回日本医学教育学会大会 ポスター 1P-M1, 2024.8.9, 東京.
- 9) 西城卓也. 森の生態系を見る医学教育者: 医学教育部門のスタッフ養成の発展に向けた文献調査. 第 56 回日本医学教育学会大会 ポスター 1P-Q7 指導者育成・評価, 2024.8.9, 東京.
- 10) 木村武司, 松坂雄亮, 今福輪太郎, 早川佳穂, 川上ちひろ, 西城卓也. 医学者教育学×日本文化論による教育実践アップデート! 日本人学習者の特性の理解とその活用. 第 56 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 3, 2024.8.9, 東京.
- 11) 鈴木康之. 医学生の社会経済的背景に対する市民と医療系教育者の認識. 第 56 回日本医学教育学会大会 口演 18 学者評価: 入学者選抜 / OSCE / その他, 2024.8.10, 東京.
- 12) 川上ちひろ. 発達障害の特性がある医学生・医療系学生への学びの支援. 第 56 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 14, 2024.8.10, 東京.
- 13) 川上ちひろ. 地域体験実習でのアート制作を通じて、医学生の共感性が涵養されるか?. 第 56 回日本医学教育学会口演 15 学習: プロフェッショナリズム・倫理(2), 2024.8.10, 東京.
- 14) 早川佳穂, 井上千鹿子. 一人ひとりを尊重した SP 団体運営のポイント. 第 56 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 25, 2024.8.10, 東京.
- 15) 高橋美裕希. 医療者は現場でどのように職種間コミュニケーション能力を育むのか? 実践共同体の視点で紐解く質的研究. 第 56 回日本医学教育学会大会 特別企画 5 多職種連携と心理的安全性, 2024.8.10, 東京.
- 16) 山口佳子, 川上ちひろ, 原田芳巳, 西城卓也. 臨床医のリトレーニングと若手指導は共存するか?: ベテラン医師の認識の探索的研究. 第 56 回日本医学教育学会大会 口演 17, 2024.8.10, 東京.
- 17) 堀田亮. “こころ”を測るものさしの作り方. 第 56 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 18, 2024.8.10, 東京.

- 18) Rintaro Imafuku, Kaho Hayakawa, Chihiro Kawakami, Takuya Saiki. Exploring patterns of topic management and development in conversations between medical students and foreign citizens. Association for Medical Education in Europe (AMEE) Conference, 2024.8.25-28, Online.
- 19) Cesar Orsini, Rintaro Imafuku, Barbara Jennings, Rashmi Kusurkar. What influences clinical educators' motivation to teach? A systematic review and framework synthesis based on Self-determination Theory. Association for Medical Education in Europe (AMEE) Conference, 2024.8.25-28, Basel.
- 20) 藤崎和彦. 健康づくりの意義と住民参加そして都市工学からの学び. 大和郡山市保健センター保健師交流会講演, 2024.9.9, 大和郡山市.
- 21) 川上ちひろ. 対応が難しい看護師への教育・支援を考える. 第 14 回日本看護評価学会学術集会, 2024.9.13, 京都.
- 22) 藤崎和彦. 医療コミュニケーションの中の看護コミュニケーション. 第 1 回日本看護コミュニケーション学会シンポジウム, 2024.9.28, 横浜市.
- 23) 西城卓也. 外科医を育てる: 卒前卒後教育の TIPS. 岐阜地区外科医 FUSE セミナー in 岐阜大学医学部附属病院会議室 3, 2024.9.28, 岐阜.
- 24) 鷹羽律紀. 住み慣れた地域で最期まで: 医療を目指すなら高山へー国際都市高山の挑戦. 東京大学大学院講義シリーズ アジアでがんを生き延びる×学際シンポジウム-地域でがんを生き延びる, 2024.10.3, 富山.
- 25) 西城卓也. 日本歯科専門医機構認定共通研修 ②患者・医療者関係の構築. 第 67 回 NPO 法人日本口腔科学会中部地方部会・学術研修会 岐阜じゅうろくプラザ, 2024.10.13, 岐阜.
- 26) 高橋美裕希, 奥村将年, 高林拓也, 早稲田勝久, 田原卓矢, 吉澤悠喜, 藤江里衣子, 川上ちひろ. 医療者の職種間コミュニケーションを育む卒後教育. 第 89 回医学教育セミナーとワークショップ WS-2, 2024.10.26, 愛知.
- 27) 山口佳子, 高橋慶, 高橋美裕希. 学習者のやる気を引出す co-creation(共創)のすすめ. 第 89 回医学教育セミナーとワークショップ WS-6, 2024.10.26, 愛知.
- 28) 藤崎和彦. 大和郡山市の自殺の現状を考える. 大和郡山市自殺予防対策担当者会, 2024.12.16, 大和郡山市.
- 29) 藤崎和彦. 科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論. 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ Seminar, 2025.1.24, オンライン.
- 30) 瀬戸山陽子, 田中邦彦, Peter Bernick, 青木昭子, 川上ちひろ, 堀田亮. 障害のある医療系学生の社会的バリアを考える. 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ セミナー WS-6, 2025.1.24, オンライン.
- 31) 樫田美雄(プレゼンター), 今福輪太郎(ナビゲーター). カンファレンスの観察社会学. 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ セミナー MEDTaaalk1, 2025.1.24, オンライン.
- 32) 藤崎和彦. 住民参加のまちづくり・健康づくりー大和郡山市の食育推進についてー. 大和郡山市食育推進計画担当者会議, 2025.2.14, 大和郡山市.
- 33) 藤崎和彦. 医療コミュニケーションのこれまでとこれから. 東海 SP 勉強会, 2025.2.22, 岐阜市.

## 他大学 FD・その他

西城卓也

- 1) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム: 第 26 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会; 講師. 2024.6.20-21.
- 2) 多様な医療者としての「らしさ」を育む: プロフェッショナル・アイデンティティの形成について考えよう. 第 56 回日本医学教育学会 ワークショップ 16; ファシリテーター. 2024.8.10.
- 3) 男性も参加 OK! 女性医師リーダーシップ教育プロトタイプ体験でダイバーシティ促進. 第 56 回日本医学教育学会 ワークショップ 23; ファシリテーター. 2024.8.10.
- 4) 【学会誌編集委員会企画】査読者に学ぶ! よい”医学教育論文”の書き方ワークショップ!. 第 56 回日本医学教育学会 ワークショップ 27; ファシリテーター. 2024.8.10.
- 5) 高山市役所 多職種で取り組む患者への複眼的ケア 飛騨メディカルハイスクール事業: 地域医療について学びましょう 将来を考えるきっかけに, 論文・面接対策にも; 講師. 2024.8.29.
- 6) 教育セミナー 医療現場で共に創る患者・医療者関係のアプローチ. 第 67 回 NPO 法人日本口腔科学会中部地方部会; 講師. 2024.10.13.

藤崎和彦

- 1) 第 24 回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修会; 世話人(代表世話人: 西城卓也). 2024.5.23-24.
- 2) 日本視能訓練士協会 2024 年度専門教育プログラムⅢ研修会; 世話人(代表世話人: 南雲幹). 2024.6.19-7.10.
- 3) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 第 1 回標準模擬患者養成担当者認定講習会; 世話人(代表世話人: 藤倉輝道). 2024.6.27.
- 4) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 標準模擬患者認定講習会; 世話人(代表世話人: 藤倉輝道). 2024.7.27.
- 5) 日本医学教育学会認定医学教育専門家における「振り返り」はどのように記載するといいいのか?. 第 56 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 28; ファシリテーター. 2024.8.10.
- 6) 第 89 回 MEDC 医学教育セミナーとワークショップ in 愛知医科大学; 世話人(代表世話人: 西城卓也). 2024.10.26.
- 7) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 第 2 回標準模擬患者養成担当者認定講習会; 世話人(代表世話人: 藤倉輝道). 2024.11.28.
- 8) 日本歯科医学教育学会第 8 回歯科医学教育者のためのワークショップ(富士研ワークショップ); 世話人(代表世話人: 田口則宏). 2024.12.3-6.
- 9) 第 90 回 MEDC 医学教育セミナーとワークショップ (Web); 世話人(代表世話人: 西城卓也). 2025.1.23-24.
- 10) 金沢大学模擬患者医療面接教育講習会; 世話人(代表世話人: 太田邦雄). 2025.1.28.
- 11) 札幌市立大学看護学部模擬患者講習会; 世話人(代表世話人: 矢野祐美子). 2025.3.7.
- 12) 日本歯科医学教育学会第 15 回歯科医療人のためのファシリテーター養成セミナー(行動変容編); 世話人(代表世話人: 秋山仁志). 2025.3.8.

- 13) 令和 7 年度愛知学院大学歯学部歯科医学教育者のためのセミナーとワークショップ; 世話人(代表世話人: 前田初彦). 2025.3.17.

鈴木康之

- 1) 男性も参加 OK! 女性医師リーダーシップ教育プロトタイプ体験でダイバーシティ促進. 第 56 回日本医学教育学会 ワークショップ 23; ファシリテーター. 2024.8.10.

川上ちひろ

- 1) 令和 6 年度 性に関する指導 (全 5 回)岐阜県立海津特別支援学校, 岐阜県立飛騨吉城特別支援学校, 岐阜県立東濃特別支援学校, 岐阜県立関特別支援学校: よりよい人間関係をつくるには「おつきあいの方程式」・まわりの人とよい関係をつくる. 岐阜県教育委員会; 講師. 2024.7.4-10.10.
- 2) 知的障害かつ発達障害の疑いのある生徒に対する性教育. 各務原市立各務原特別支援学校 職員研修; 講師. 2024.7.23.
- 3) 特別支援教育における性教育 ～事例をもとに～. 岐阜県立東濃特別支援学校 性教育職員研修会; 講師. 2024.8.1.
- 4) 発達障害のある子どもの嵐の思春期を支援する, 性・人間関係の課題を乗り越えるために: 女の子の発達障害/発達障害のある子の性の問題. 株式会社遠見書房 講習会; 講師. 2024.8.7.
- 5) 子どものこころやからだの発達を支援する 連続セミナー2024 夏, 特性のある子の性について; 発達障害の子の性のルール. 合同出版株式会社; 講師. 2024.8.19.
- 6) 発達障害およびその傾向のある看護学生への実習指導. 学校法人 河原学園 人間環境大学 看護学部 FD・SD 研修会; 講師. 2024.8.22.
- 7) 子どもの心とからだの健やかな成長をめざしてー子どもたちが安心できる関わり方ー: 発達障害のある子の性の成長をサポートする. 第 43 回愛教組連合養護教員研究集会; 講師. 2024.8.24.
- 8) 多職種で取り組む患者への複眼的ケア「飛騨メディカルハイスクール事業」: 地域医療について学びましょう 将来を考えるきっかけに, 論文・面接対策にも. 高山市役所; 講師. 2024.8.29.
- 9) 対応が難しい新人看護師との関わり. 公益社団法人 岐阜県看護協会 岐阜県新人看護職員教育事業プログラム 教育担当者研修; 講師. 2024.8.31.
- 10) 発達障害のある女の子・女性への支援 ～自分らしく生きるためのサポート～: 発達障害のある女の子・女性のライフステージを見据えた理解と支援のあり方. 青森県発達障害者支援センター「ステップ」青森県発達障害者支援整備事業公開講座; 講師. 2024.9.7.
- 11) 性講話「好きな人などのかかわり方」: 「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには. 岐阜県立大垣特別支援学校; 講師. 2024.9.12.
- 12) 対応が難しい看護師への教育・支援を考える. 第 14 回日本看護評価学会学術集会; 講師. 2024.9.13.
- 13) 第 21 回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修 分科会 3: 多様性の理解. 独立行政法人国立高等専門学校機構; 講師. 2024.9.18.
- 14) 発達障害のある医療系学生の支援. 学校法人藤田学園 藤田医科大学; 講師. 2024.9.25.
- 15) 第 33 回大会 Face to Face の関係構築・地域づくりー地方・地域の Good Practice をもとに日本の LD 支援と LD 研究を一步進めようー: 発達障害のある子の性と関係性をどのように教えるのか.

一般社団法人日本 LD 学会; 講師, 2024.10.19-20.

- 16) 発達障がいのある子どもたちの性教育. ひょうご子どもと家庭福祉財団; 講師. 2024.10.5.
- 17) 発達障がいがある子の性教育. 岐阜県教育委員会特別支援教育課; 講師. 2024.10.9.
- 18) 市民公開講座 第一回 普通って何だろう? 第二部 ことば, 発達, 教育, 医療にかかわる私たちの取り組み: 発達障害と, 女性であることと～発達障害のある女の子・女性との活動を通じて～. 岐阜大学地域共創型飛騨高山医療者教育学講座; 講師. 2024.10.12.
- 19) 令和 6 年度愛知県専任教員養成講習会. 愛知県立総合看護専門学校 愛知県看護研修センター; 講師. 2024.10.15-25.
- 20) 女性と ASD 「自閉症のある女の子・女性の困りごととその対応」. 一般社団法人 日本自閉症協会; 執筆・資料監修. 2024.10.26-12.26.
- 21) 発達障害と性について. 株式会社 voice and peace; 講師. 2024.11.1.
- 22) 対応に難しさを感じる新卒・新人訪問看護師の理解と支援. 公益社団法人 滋賀県看護協会 訪問看護ステーション等管理者・指導者および看護基礎教育機関教員 合同研修会; 講師. 2024.11.2.
- 23) 発達障害のある子の性と関係性の教育. よりそいネットおおさか 性の問題行動を考える研究会; 講師. 2024.11.15.
- 24) これからの多様な臨床教育: 教育講演 I 発達障害の(が)ある(かもしれない)看護職の理解と支援. 日本在宅看護学会第 14 回学術集会; 講師. 2024.11.16.
- 25) 医学生が岐阜を段階的に学ぶ授業の取り組み ～地域の医療・保健・福祉を, 住民等との交流を通じ, 地域に根ざす視点を持った医療者になる～. 清流の国岐阜 文化祭 2024 文化の発言 ～研究者と岐阜を熱く語ろう～ in 岐阜大学; 講師. 2024.11.17.
- 26) 主体性のない学生への関わり方～対応に困る学生への理解と関わり～. 学校法人関西医科大学看護学部 2024 年度第 4 回 FD 研究会; 講師. 2024.11.22.
- 27) 発達障害のある女性の心理支援: 発達障害のある女性の支援ーカモフラージュに注目してー. 臨床心理 i ネット 臨床心理 iNEXT 研修会; 講師. 2024.11.23.
- 28) 発達障害及びその特性をもつ看護学生の理解と実習指導. 学校法人日本赤十字学園 日本赤十字看護大学 2024 年度地域連携フロンティアセンター実習指導者研修会; 講師. 2024.11.25.
- 29) 発達障がいがある子どもたちの性教育: 特別支援教育における性教育 発達に凹凸がある子の性の問題について, 事例をもとに. 家族会きざはし 保護者向けオンライン講演会; 講師. 2024.11.29.
- 30) 児童自立支援施設入所児童への性教育について: 発達障害のある子どもの性の成長のサポート. 岐阜県立わかあゆ学園 職員研修会; 講師. 2024.12.3.
- 31) 発達障害のあるスタッフとの関わり方. 認定看護管理者会東海ブロック 研修会; 講師. 2024.12.7.
- 32) 令和 6 年度宮古圏域発達支援セミナー: 発達障がい ～性の問題を考える～. 特定非営利活動法人 宮古圏域障がい者福祉推進ネット; 講師. 2024.12.14.
- 33) 発達障害および発達障害の特性のある学生への支援に関する研修会. 公立大学法人岐阜県立看護大学令和 6 年度第 2 回教育能力開発研修会プログラム; 講師. 2024.12.24.
- 34) 特別支援教育(学校)における性に関する指導. 岐阜県立郡上特別支援学校職員研修会; 講師. 2024.12.25.
- 35) 発達特性のある児童生徒への性に関する指導. 宮城県教育庁 第 33 回宮城県性教育指導者研修会;

講師.2025.1.14.

- 36) 株式会社学研メディカルサポート E ラーニングサービス学研サポート看護管理者特別コースⅡ E ラーニング講義：対応に配慮が必要なスタッフとともにインクルーシブな組織を育てる 対応に配慮が必要なスタッフとは；講師.2025.1.26
- 37) 国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害地域生活・就労支援者研修会：発達障害のある児者の性と人間関係の成長のサポート；講師.2025.2.5-7
- 38) 発達障害のある児者の性と人間関係の成長のサポート. 国立障害者リハビリテーションセンター学院 発達障害地域生活・就労支援者研修会(オンライン); 講師.2025.2.6.
- 39) みどり病院青年委員会学習交流企画：ともに育ちあうために私たちにできることを考えよう！；講師.2025.2.15.
- 40) カモフラージュをして生きる子どもたちを地域で支える. 日本学校健康相談学会 第21回学術集会実行委員会; 講師.2025.3.8
- 41) 公立大学法人敦賀市立看護大学：教育現場における Z 世代×X 世代の関係から、学生支援を考える；講師.2025.3.14.

今福輪太郎

- 1) なぜ「多様性」なのかを考える ～ 障害のある医療系学生や医療者と共に学び働くことで変わるもの ～. 第56回日本医学教育学会大会 ワークショップ15; ファシリテーター.2024.8.10.
- 2) 日本医学教育学会認定医学教育専門家における「振り返り」はどのように記載するといいいのか?. 第56回日本医学教育学会大会 ワークショップ28; ファシリテーター.2024.8.10.
- 3) 男性も参加 OK! 女性医師リーダーシップ教育プロトタイプ体験でダイバーシティ促進. 第56回日本医学教育学会 ワークショップ23; ファシリテーター.2024.8.10.
- 4) 【学会誌編集委員会企画】査読者に学ぶ! よい“医学教育論文”の書き方ワークショップ!. 第56回日本医学教育学会 ワークショップ27; ファシリテーター.2024.8.10.
- 5) 「普通」って何だろう? 言語・異文化コミュニケーションの観点から. 岐阜大学地域共創型飛騨高山医療者教育学講座市民公開講座 第一回 普通って何だろう?: 第二部 ことば, 発達, 教育, 医療にかかわる私たちの取り組み; 講師.2024.10.12.

高橋美裕希

- 1) 第27回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会. 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム; 講師.2024.6.20-21.
- 2) 医師と患者の対話ー医師は何を考えているのかー. 高山市役所; 講師.2024.7.14.
- 3) 令和6年度 岐阜清流中学校 キャリア教育講話. 岐阜市立岐阜清流中学校; 講師.2024.10.19.

野村理

- 1) 日本小児科学会：第33回小児科医のための臨床研修指導医講習会；タスクフォース.2024.7.6-7.
- 2) 医学教育研究の基本を学ぶワークショップ.第56回日本医学教育学会.プレカンファレンスワークショップ4;ファシリテーター.2024.8.8.

- 3) 【学会誌編集委員会企画】査読者に学ぶ！よい“医学教育論文”の書き方ワークショップ！. 第 56 回日本医学教育学会 ワークショップ 27; ファシリテーター. 2024.8.10.
- 4) 日本小児科学会：第 34 回小児科医のための臨床研修指導医講習会；タスクフォース.2025.1.11-12.

### 学術賞等の受賞

- 1) Rintaro Imafuku: Full membership Sigma Xi. 2024.6.
- 2) 川上ちひろ, 野村理: 第 56 回日本医学教育学会 懸田賞. 2024.8.
- 3) 今福輪太郎: 第 20 回日本歯科医学教育学会 優秀論文賞. 2024.9.
- 4) 野村理: 一般社団法人 DST エビデンス部門 優秀賞. 2024.11.

### 学術雑誌

西城卓也

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会: 副編集長(～現在)
- 2) Korean Journal of Medical Education: Editorial Board(2017 年～現在)

今福輪太郎

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会: 編集委員 (2013 年～現在)
- 2) BMC Medical Education: Associate Editor (2015 年～現在)
- 3) 日本医学教育学会 編集委員会: 編集委員 (2019 年～現在)
- 4) JMA Journal: Editor (2023 年～現在)
- 5) Frontiers in Medicine (Health Professions Education) : Review Editor (2023 年～現在)
- 6) 新しい医学教育の流れ: 編集委員 (～2024 年 12 月)
- 7) 言語管理研究会 接触場面分科会: 委員 (2024 年～現在)
- 8) 日本医学教育学会 研究推進委員会: 副委員長 (2024 年～現在)
- 9) 日本医学教育学会 学会国際化委員会: 委員 (2024 年～現在)

早川佳穂

- 1) 新しい医学教育の流れ: 編集委員 (～現在)

高橋美裕希

- 1) 日本医学教育学会: 代議員 (2023 年～現在)
- 2) 日本内科学会東海地方会 :評議員 (2017 年～現在)

野村理

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会 :編集委員 (2024 年～現在)
- 2) 日本医療教授システム学会 : 編集委員(2017 年～現在)

## 学会の役員・委員等

西城卓也

- 1) 日本プライマリ・ケア連合学会: 中部地区代議員
- 2) 一般社団法人日本医学教育評価機構: 評価員
- 3) 日本医学教育学会: 代議員, 理事, 学会誌編集委員会副委員長, 研究推進委員会 オブザーバー, 医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会委員, 若手による医学教育とそのキャリア支援部会長

藤崎和彦

- 1) 日本医学教育学会: 理事・評議員, 医学教育専門家委員会委員長, 医学教育専門拡大 WG 委員会委員長
- 2) RIAS 研究会日本支部: 代表
- 3) 日本医療福祉政策学会: 幹事
- 4) 日本保健医療行動科学会: 顧問
- 5) 大学イノベーション日本: 幹事
- 6) 日本ヘルスコミュニケーション関連学会機構: 代議員
- 7) 日本メディカルコミュニケーション学会: 運営委員
- 8) 日本医療コミュニケーション学会: 運営委員
- 9) 日本ヘルスコミュニケーション関連学会機構: 優秀論文賞選考委員会委員長
- 10) 日本看護コミュニケーション学会: 運営委員

今福輪太郎

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会: 理事, 編集委員会委員長
- 2) 日本医学教育学会: 代議員, 編集委員会委員, 研究推進委員会委員
- 3) 日本歯科医学教育学会: 代議員
- 4) 全国医学部国際交流協議会: 国際活動推進委員会委員

川上ちひろ

- 1) 日本医学教育学会: 代議員, 医学教育専門家ポर्टフォリオ班

早川佳穂

- 1) 医療系 e ラーニング全国交流会: 世話人
- 2) 日本医療コミュニケーション学会: 運営委員

鈴木康之

- 1) 日本医学教育学会: 監事
- 2) 日本小児科学会: 小児科サブスペシャリティ領域協議会委員長
- 3) 日本小児医学教育研究会: 幹事

高橋美裕希

- 1) 愛知医科大学カリキュラム検討部門委員会: 外部委員

野村理

- 1) 日本小児科学会: JPLS 委員会, 生涯教育・専門医育成委員会, 英文誌編集委員会
- 2) 日本医学教育学会: 代議員, 編集委員会委員, 研究推進委員会委員

## 社会活動

西城卓也

- 1) NPO 法人卒後臨床研修評価機構: サーベイヤー (～現在)
- 2) 京都大学医学部: 客員研究員 (～現在)
- 3) 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック: 非常勤医師 (～現在)
- 4) 清流の国岐阜総合診療専門研修プログラム管理委員会: 委員 (2017 年度～現在)
- 5) 愛知医科大学医学部カリキュラム評価委員会: 外部委員 (2019 年 4 月～現在)

藤崎和彦

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構: 医学系 OSCE 実施小委員会 模擬患者標準化専門部会委員 (～現在)
- 2) 大和郡山市すこやか 21 計画推進委員会: アドバイザー (～現在)
- 3) 藤田医科大学: 客員教授 (～現在)
- 4) 兵庫医科大学: 特別招聘教授 (～現在)
- 5) 京都府立医科大学: 客員講師 (～現在)
- 6) 九州歯科大学: 非常勤講師 (～現在)
- 7) 獨協医科大学 デジタル活用教育高度化事業: 外部評価委員 (2021 年 6 月～現在)
- 8) 滋賀医科大学: 非常勤講師 (～現在)
- 9) 聖隷クリストファー大学: 非常勤講師 (～現在)

川上ちひろ

- 1) 社会医療法人聖泉会聖十字病院: 倫理審査委員会委員 (2018 年～現在)
- 2) 訪問看護ステーションサーラ: 非常勤看護師 (保健師) (2007 年～現在)
- 3) 岐阜聖徳学園大学: 非常勤講師 (2021 年～現在)

今福輪太郎

- 1) 大垣北高等学校グローバル探究実践事業: 担当教員 (～現在)

早川佳穂

- 1) 朝日大学歯科衛生士専門学校: 非常勤講師 (2021 年 10 月～現在)
- 2) 東洋学園国際医学技術専門学校: 非常勤講師 (2021 年 4 月～現在)
- 3) 岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科: 外部講師(2024 年 4 月～現在)

- 4) 平成医療短期大学: 非常勤講師(2024年10月～現在)
- 5) 一般社団法人日本SP協会: SP トレーナー(～現在)

鈴木康之

- 1) 日本ムコ多糖症親の会: 顧問 (～現在)
- 2) ALD 親の会: 顧問 (～現在)
- 3) 一般社団法人日本医学教育評価機構: 評価員 (～現在)

高橋美裕希

- 1) キャリア教育授業 愛知淑徳高校: 講師 (2023年10月～2024年10月)

野村理

- 1) 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構: 医学系 OSCE 到達基準検討委員会委員
- 2) 横浜市立大学: 客員准教授
- 3) 富山大学医学部: 協力研究員
- 4) 弘前大学大学院医学研究科: 客員研究員

## 専門医等

西城卓也

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家
- 4) 日本専門医機構総合診療領域特任指導医

藤崎和彦

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

川上ちひろ

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

鈴木康之

- 1) 日本小児科学会専門医
- 2) 厚生労働省臨床研修指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

野村理

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医

- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家
- 4) 小児科専門医・指導医
- 5) 救急科専門医・指導医

高橋美裕希

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) 日本専門医機構総合診療領域特任指導医
- 3) 日本内科学会認定医
- 4) 臨床研修プログラム責任者

## 報道

- 1) 「医療者全体で育つこと大事」高山市の人材教育 指導医ら開始1カ月を報告. 中日新聞, 2024.4.26.
- 2) 岐阜大 MEDC が開催 医学教育セミナーとワークショップ. 文教速報, 2024.7.1.
- 3) 「医学生の実験環境は相当豊か」, 調査で明らかにー鈴木康之・岐阜大学名誉教授に聞く Vol.1. 医療維新, 2024.7.15.
- 4) 「医学部志願者の門戸を拡大、多様化」が課題ー鈴木康之・岐阜大学名誉教授に聞く Vol.2. 医療維新, 2024.7.24.
- 5) 「医師の多様性確保 入学前から生涯にわたるキャリアのデータが必要」第56回日本医学教育学会大会「入学者選抜におけるダイバーシティ&インクルージョン」(鈴木康之). 医療維新, 2024.8.19.
- 6) 過半数は「親の年収1000万円以上」, 3分の1は「親が医師」, 医学部生の恵まれた背景が明確に NEWS 第56回日本医学教育学会大会で医学部生の社会経済的背景の調査結果を発表(鈴木康之). 日経BP. <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t350/202408/585466.html>, 2024.8.26.
- 7) ぎふで KOSO! 岐阜大発 川上ちひろさん 医療者に必要な能力は 思いやる心 学力同様に大切 多くの人と関わり養って. 中日新聞, 2024.9.7.
- 8) ともつく寄附講座 「発達障害」がテーマの講座 市と岐阜大が…医師の講演など. 高山市民時報, 2024.10.4.
- 9) ともつく寄附講座 市民講座「普通って何だろう？」 12日高山岐阜大と医療者教育の一環. 中日新聞, 2024.10.8.
- 10) 「脳の型で生き方それぞれ」発達障害テーマ, 高山市で公開講座 愛知医科大学の兼本名誉教授 ADHD と健常者比較, 解説. 岐阜新聞, 2024.10.13.
- 11) 医学部医学科入学者選抜の現在と, 望ましい在り方を考える(大滝純二, 鈴木康之, 松岡亮二, 渡邊洋子). 医学界新聞, 3567号: 6-7. 2024.11.12.
- 12) 医療従事者の感情の謎を解く 感情を共にする医療者教育(野村理). 中部経済新聞, 2024.11.12.
- 13) =岐阜大学= 医学教育セミナー・ワークショップ開催. 文教ニュース, 2024.12.2.
- 14) ぎふで KOSO! 岐阜大発 鈴木康之さん 医学部に多様な学生を 志ある子ども 大学が支援. 中日新聞, 2024.12.14.
- 15) ともつく寄附講座 最期は自分らしく人生会議を考える 高山で講座: 中日新聞, 2025.1.21.

# 「医療者全体で育つこと大事」

高山市の人材教育 指導医ら開始1カ月を報告



研修について語る(右から)高橋医師、西城教授、鷹羽医師＝高山市役所で

医療人材の不足を補おうと、高山市が岐阜大と共同で進めている教育事業が本年度からスタートした。2028年度まで5年間の予定で、今月から同大の医師2人が市内の研修医を指導。25日には市役所で、この1カ月間の報告会があった。

高山赤十字病院(高山市天満町)では同大の鷹羽律紀医師(29)が勤務。手術の助手をしながら、研修医にポイントを解説している。久美愛厚生病院(同市中切町)では高橋美裕希医師(46)が、医学生らに見学してもらいながら外来診療などに従事。高橋医師は「研

中日新聞  
2024.4.26(金)

## 岐阜大MEDCが開催 医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は5月24日までの3日間にわたり、第88回医学教育セミナーとワークショップを開催した。また、第25回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修とあわせて実施し、延べ185名が参加した。

今回は四つのワークショップとウェビナーを行った。ワークショップの一つ『学生の社会情動的スキルを育むアプローチを考える』は、4年ぶりに岐阜大で対面開催。非認知能力と教育に関する話題について、全国医療機関のさまざまな医療職で卒前卒後教育に関わる人々と議論する機会となった。

はじめに、非認知能力の基本的な捉え方に関する講義が行われ、非認知能力の定義、よく利用されるフレームワーク、発達段階との関係性について共有し、意見を交わした。また、ワールドカフェ方式で、非認知能力に大きく影響を受けているような困った学習者や教育者事例を扱うテーブルを設け、活発な議論が行われた。

さらに、今後の医療者教育の中で実践できそうな工夫について共有し、発表を行った。参加者からは「ワールドカフェならではの多彩な工夫やコツを共有することができ有意義だった」と好評を博した。

また、ワークショップ「学習ポートフォリオ評価：基本と現状」は、国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の共同企画として実施した。岡山大学病院の猪田(いだ)宏美氏と東京医科大学の油川ひとみ氏がポーターオリオの実践例について紹介。教員と事務職員が共通のテーマでディスカッションする貴重な機会となった。

さらに、Webinar企画として、『非認知能力から見た医療系教育への示唆』を実施した。早稲田大学の小塩真司教授を講師に迎え、「こ」教年注目を集めている「非認知



ウェビナーでのディスカッション。早稲田大の小塩教授①、MEDCセンター長の西城卓也教授②、MEDCの川上ちひろ准教授③

## 非認知能力から見た 医療系教育への示唆

小塩真司(早稲田大学文学学術院)

早稲田大の小塩教授による  
オンラインウェビナー

何らかの形で活かしていくためのヒントについて議論した。特に医学部は認知能力を重要視してきた背景を踏まえ、非認知能力が医療者教育に導入されることは、大きなインパクトを与える可能性があることを示唆した。今後一層の非認知能力を育む教育実践が開発・研究されることが期待される。

文教速報  
2024.7.1(月)

高山市民時報  
2024.10.4(金)

「発達障害」がテーマの講座、市と岐大が…医師の講演など  
 発達障害をテーマにした市民公開講座「普通って何だろう?」もに考えてみませんか、発達と教育について」が12日朝10時から飛騨センターで開かれる。主催は、市と岐阜大が今年度から共同で取り組む「地域共創型飛騨高山医療者教育講座」。

同教育学講座は市の寄付を財源に同大が開設。同大の医師2人が専任教員として週2日、中核病院での診療や医療者教育を行い、その内容を同大での学生の指導にも役立てる。市民公開講座もその一環で、今回が初開催。

第1部は精神科医で愛知医科大の兼本浩祐名誉教授が「普通という異

常の視点から見つめて直す」と題して講演。第2部は市内外の医師によるパネルディスカッションを行う。

専任教員の一人、高橋美裕希特任准教授は「この市民公開講座を通じて、発達障害を治すのではなく、個性として受け入れられる社会につなげたい」と話していた(右



写真。9日までに岐阜大教育学研究センターのホームページから申し込む。先着100人。受講無料。

# 「脳の型で生き方それぞれ」

## 発達障害テーマ、高山市で公開講座

愛知医科大の  
兼本名誉教授

### ADHDと健常者比較、解説

発達障害をテーマにした市民公開講座が12日、高山市千鳥町の飛騨・世界生活文化センターで開かれ、市民ら約100人が講演などに耳を傾け、「普通に生きる」とは何か」について向き合った。(山田雄大)

同市が今年、岐阜大に寄付して開設した「岐阜大学地域共創型飛騨高山医療者教育講座」が主催。本年度は3回の市民講座を予定しており、今回は初回。「普通(ADHD)と健常者を比較したとき、「どっちが普通とよめるか」と疑問を投げかけ、両者の脳の動きの違いを解説。「ADHDの人は生活の中でさまざまなノイズを感じやすくなる一方、予想



発達障害をテーマに講演する兼本浩祐名誉教授。高山市千鳥町、飛騨・世界生活文化センター

岐阜新聞 朝刊11面  
2024.10.13(日)

外の出会いが生まれがちな「どっち」がよめるか」と話した。気や判断するのは果どのなのか」と指摘。講演後、岐阜大医学研究センターや病棟のスタッフらにヘルプデスクが設けられた。



医療で「感情」は必要か  
どうするか。この問いを考えた  
るために、まず、感情とは  
どのようなものが整理した  
ら。感情には「知覚」と  
「表出」の二つの側面があ  
る。知覚は自己内省しては他者  
の気持ちを感じること、表  
出は気持ちを表情や口調、  
言葉などで表現することと  
言える。また、感情にはい  
くつかの分類があり、「驚  
き」「立ち上がり」「楽しさ」  
などは認知的なグループに  
分けられ、動物にも生じる  
とされる。例えば、猫のし  
ぼりを聞くと踏んづけてしま  
う。猫はその瞬間に、鳴  
き声を上げ、目を見開き、

### 感情を共にする医療者教育

会生活を営む霊長類に多く認められるとされる。医療従事者も人間・動物であり、患者さんを深く思いやる気持ちを持つ一方、想定外なことがあればいら立つこともあつた。また、感情は「赤い地」のようであつた。そこで、まずは、日本の医療従事者の感情を測定する尺度を開発することにした。カナダの大学院をどうにか卒業し、開発した日本語の小児病院や大学の救急部での業務の際に自分の感情の扱いに苦労した。救急車から患者さんの受け入れ要請を知らせるホットラインという電話の警報のよな音を聞くたびに私は驚き、子どもたちへの治療がうまくいくと仲間へ喜び、その回復に感謝した。逆に、診療がスムーズにいかないことだらけ立ち、同僚や環

海外では医師の感情が診断の正確さや、業務上の意思疎通の円滑さに影響するなどの研究知見が蓄積されてい一方、日本では医療従事者の感情を測定する方法すら定まらなかつた。その中で、まずは、日本の医療従事者の感情を測定する尺度を開発することにした。カナダの大学院をどうにか卒業し、開発した日本語の小児病院や大学の救急部での業務の際に自分の感情の扱いに苦労した。救急車から患者さんの受け入れ要請を知らせるホットラインという電話の警報のよな音を聞くたびに私は驚き、子どもたちへの治療がうまくいくと仲間へ喜び、その回復に感謝した。逆に、診療がスムーズにいかないことだらけ立ち、同僚や環

## 医療従事者の感情の謎を解く



野村 理  
開設 開発 学術 学術 学術 学術  
研究 センター センター センター センター

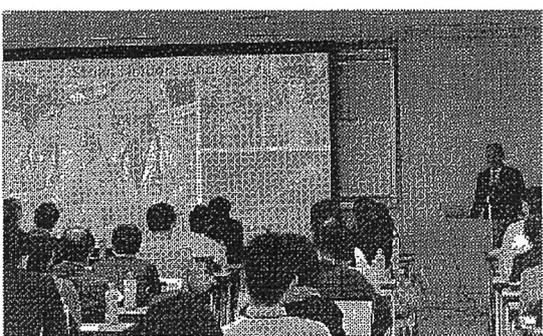
顔にしわを寄せ、驚きといふ立ちを表出する。一方、「思ひやり」「嫉妬」などは社会的な感情とされ、社

境に怒りを感じてもあつた。そして、自身の感情の振幅に耐えられず、次第に感情を表出するのを抑えるようになっていった。その後、カナダの大学院で教育心理学を学ぶ機会を得た。そこで、かつて自分が感情表出の抑制という手法を無意識に使っていたこと、一つの制御方法に頼るのではなく、状況に応じて適切な手法を用いるべきであることを知った。また、

医療の現場は感情に満ちあふれている。医療に関わる全ての専門職や学生が感情を覆い隠さず、自分身と患者さんやその家族、同僚の感情になめらかに向かい合い、それぞれの感情たちと共に、最善な医療を提供できる口が来ることを夢描き、研究を続けたい。

中部経済新聞 朝刊8面  
2024.11.12(火)

### ＝岐阜大学＝ 医学教育セミナー・ワークショップ開催



池野氏によるセミナー

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は10月26日、第89回医学教育セミナーとワークショップを愛知医科大学と共同で開催した。当日は、8つのワークショップとセミナーを実施し、講師を含む延べ25名が参加した。

レブレンナーシップ教育」では、スタンフォード大学の池野文昭氏を迎え、医療機器ビジネスの起業家精神育成講座であるスタンフォードバイオデザインプログラムを紹介した。スタンフォード大学では、社会のニーズに合った人材を継続的に育成することに重点をおき、医療機器ビジネスの創出ができる次世代リーダーの育成を行っており、世界中の多くの患者を救うことができる医療機器の開発を推進する人材を社会に輩出することで社会に貢献している。日本の医学部での人材育成の考え方は異なる新しい実践例を紹介する機会となり、参加者からは「アントレプレナーシップ」というトピックが新鮮だった。「背筋が伸ばされるような講演で刺激になった」との声が寄せられた。

さらに、「医療系大学におけるアントレプレナーシップ教育について考えよう」と題したワークショップも実施。浜松医科大学における実践例を提示後、医療系大学の各養成課程教育におけるアントレプレナーシップ教育の実現可能性について、参加者同士で意見交換を行った。そのほかの7つのワークショップでは、参加者から「普段交流できない職種の方と交流する機会があり新鮮であった」「各大学の意見を聞くことができるので、自身の視野が広がる」といった意見が寄せられた。

文教ニュース  
2024.12.2(月)

# まわでKO SO!

(本誌記者取材)

過去の記事は  
こちら

## 思いやる心 学力同様に大切

医療者に必要な能力は

もし病気になったら、どんな医師、薬剤師、看護師にどんな治療やケアをしてもらいたいですか？ 多くの人は、的確な診断や治療方針を立てられる医療者を求めると思いますが、それ以外に患者の事情、気持ちを想像しながら治療を選択できることや、円滑なコミュニケーションを期待する方も少なくありません。それでは、大学の医療系学部

の入学試験ではどんな能力が必要になるのでしょうか。お子さんが医療系の学部を目指しているご家庭では、入学試験やテストで1点でも多く獲得すること、すなわち学力や記憶力（総じて認知能力）が重要だと思われていると思います。お子さんが試験で高成績を得るために、家庭では家族との会話やお手伝いよりも勉強時間の確保

を優先してしまうこともあるかもしれません。ここで、医療系学部に入學する際に求められる能力と、医療者になってから求められる能力にギャップがあることに気が付かれたでしょうか？ 相手の立場や気持ちを想像することなどの非認知能力といわれるものは、テストの成績がよいからできるのではなく、幼いころから



川上ちひろさん

さまざまな経験やいろいろな人の関わりを通じて身につけていくものです。

大学の授業中に「正解は何ですか？」「何をすれば合格ですか？」と問う学生が多くいます。しかし病気の診断や患者に合った関わり方の正解は誰かが教えてくれるわけではありません

ら。ぜひご家庭でも、非認知能力を身につけることを大切にしてください。そのためには保護者、友だちなどいろいろな人と関わるのが大切です。

岐阜大学の医学部医学科では、授業内で地域の方々や交流する「地域体験実習」があります。診療所の診察の様子や、住民の皆さんの交流などを通じ、実習で学んだことや気づいたことを最後に写真と短い文章で構成する「フォトボイス」という方法で振り返っています。

地域の方々と交流したり、自身の経験を写真や文章で他者に発信したりすることで自分自身を振り返ることができ、非認知能力をはぐくむことを意識しながら

ら医師の養成をしています。誤解がないように付け加えますが、医療者になるのに認知能力（勉強すること）が不要だということではありません。認知能力と同じように非認知能力も大切です。「スキルがスキルを生む」という言葉もあり、共感性が高まればコミュニケーション能力が高まり、モチベーションが高まり勉強の意欲が湧いていく、いい循環が生まれていきます。どちらもバランスよく獲得していくのが大切です。

かわかみ・ちひろ 大学院医系研究科准教授、看護師。専門は医療者教育学。名古屋大学大学院医系研究科 博士（医学）。

一瞥へのスタートライン



多くの人と関わり 養って

中日新聞  
2024.9.7(土)

## 市民講座「普通って何だろう？」

12日高山 岐阜大と医療者教育の一環

発達と教育をテーマにした市民公開講座「普通って何だろう？」が12日午前10時から、高山市千島町の飛騨・世界生活文化センターで開かれる。同市が本年度から、岐阜大学と取り組む「地域共創型飛騨高山医療者教育学講座」の一環で、市民向けには初のイベント

となる。

市は人手不足に陥る医療



発達と教育について考える公開講座の受講を呼び掛ける高橋特任准教授。中日新聞高山支局で

現場の充実などを目的に、2028年度まで5年間にわたる岐阜大の寄付講座を企画。今年4月から、同大の医師2人が市内の病院で学生や若手医師を指導している。

12日の公開講座では愛知医科大の兼本浩祐名誉教授が講演。同市の久美愛厚生病院、高山赤十字病院、須田病院と岐阜大医学教育開発研究センターの医師を交えたパネル討論もある。

受講無料で、先着100人。9日までに専用フォームQRコードから申し込み。寄付講座の専任教員の1人で、今回の司会を務める同大の高橋美裕希特任准教授は「特性のある人が『発達障害』という言葉で線引きさ



れがちだが、『極端な普通』もまた病である、という視点も含めて考える機会になれば」と話す。

(鈴木智行)

中日新聞  
2024.10.8(火)

## 志ある子ども 大学が支援

お子さんの将来のために「良い教育を受け、良い仕事に就いて、幸せな生活を送ってほしい」と考えるのは、親として自然なことだと思います。一方で、「学歴だけが人生じゃない、自分のやりたい人生を全うできることが幸せだ」と考える方も多いでしょう。

医学部を例にとると、医師として「自分のやりたい仕事ができる」ことはとても幸せなことですが、医師になるためには残念ながら厳しい受験を乗り越えなければならず、「学歴だけが人生じゃない」と言っている現実があります。

市民の皆さんにインタビューすると「医学部に入るためには、偏差値の高い高校に入る必

要がある。中学受験も考えないといけない」「小学校から塾に通わせなければならぬが、経済的余裕はウチにはない」とお考えの方は多いようで、「ウチの子どもが医学部を目指すのはムリ」と、始めから諦めてしまわれる方もいらっしゃいます。

実際に医学生がどのような家庭環境で育ってきたかを調査した結果では、医学生の過半数は家族年収が1千万円以上で、私立中高一貫校を卒業し、両親の学歴も高いことが明らかになっています（東京大学入学者の結果と非常に良く似ています）。

これは日本だけでなく世界の

多くの国で共通する状況で、恵まれた家庭環境で育った子どもでない医学部に入りにくい現実があるのですが、「現状をこのままにしておいて良いのか？」という疑問の声が各国の医学教育関係者から上がっています。

なぜなら、医師が奉仕する国民は実にさまざまな社会状況に置かれて多種多様な健康問題を抱えており、それを真摯に受け止め、さまざまな医療問題に立ち向かうには、医師・医療者の側も多様性を持った集団である必要がある、という考えに基づいています。

英国では「社会のさまざまな



鈴木康之さん

随園出身の医師を増やす」という国家的な方針に基づいて、社会経済的に恵まれない家庭の子どもでも医学部を目指すような支援が始まっています。格差社会と言われて久しい日本でも、最近ようやくくろくした現状が認識され、議論が始まりました。日本の大学や医学部の入試も

国際的動向と歩調を合わせるように変革期に差し掛かっています。さまざまな工夫をして、真に志を持った多様な方々が医学部に入学できるように、各大学が努力しています。

私たち医学教育の研究に携わる者も、医学を志したいと考える子どもたちとご家族を継続的に支援し、高校の先生方にも働きかけながら、未来の教育づくりのために発信を続けていきたいと思っています。



すすき・やすゆき 名誉教授・医学教育開発研究センター特任教授。岐阜大医学部に1980年に卒業。小児科医として診療に携わる傍ら、医学教育の研究をライフワークとしている。

中日新聞  
2024.12.14(土)

2025年1月21日 中日新聞朝刊

**最期は自分らしく 人生会議を考える**  
高山で講座

自分や家族が望む最期の迎え方について考える講座「自分らしく生きる」が20日、高山市千島町の飛騨・世帯生活文化センターであった。新潟大医学部医学科の岡崎史子教授らが登壇し、市民約50人が耳を傾けた。

同市が昨春、医療人材の育成を目的に岐阜大と共同で始めた「地域共創型飛騨高山医療者教育学講座」の一環。今回は、患者が最期にどんな医療ケアを受けたかを家族や医療従事者らと共有する「人生会議」をテーマにした。

岡崎教授は「患者が延命措置を望まないなら、その理由を聞くことが大事」と説明。家族に負担をかけたくない、痛みが嫌など理由はさまざまだといい「価値観を理解していれば、想定外の状況で家族が選択を迫られた時にも本人の意志を押し量れる」と話した。

自分らしく生きるためにできることを話す（左から）今井医師と駒屋院長、岡崎教授＝高山市千島町で

最後に医療従事者を迎えたトークイベントがあり、高山赤十字病院（同市天満町）の今井英医師は「医師は「延命するか」などの選択は変えてもいい」と患者に伝え、治療を保障することが大事」と指摘。飛騨市古川町のひだ在宅クリニックの駒屋憲一院長は「死と向き合うのが怖ければ、何に幸せを感じるのか書き出すところから始めてみて」と提案した。（松沢慎香）

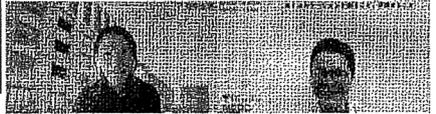
中日新聞  
2025.1.21(火)

岐阜大で医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、第90回医学教育セミナーとワークショップをこのほど2日間にわたり開催した。今回はウェビナーと、四つの「MEDTaaalk」、さらに六つのワークショップを実施し、講師を含む総勢227名が参加した。



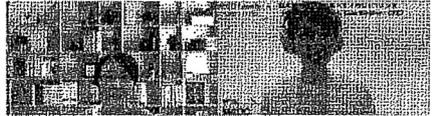
MEDTaaalk1: 摂南大の榎田美雄教授、名古屋市立大の今福輪太郎准教授



MEDTaaalk2: 帝京大の石川ひろの教授、MEDCの野村理併任講師



MEDTaaalk3: 立教大の灘光洋子教授、MEDCの早川佳穂特任助教



MEDTaaalk4: 東京慈恵会医科大の野呂幾久子教授、岐阜大の高橋美裕希特任准教授

MEDTaaalkでの  
ディスカッション

「MEDTaaalk」は、テーマに関する講師のミニプレゼンテーションと、プレゼンに続く講師とナビゲーターの対話の様子を視聴することができる企画。この企画は、これまで学んだことのないような幅広い分野の知見に触れる機会を提供し、医療者教育の裾野を広げることを目的としている。また、視聴中に参加者が気になったことなどは、Q&A機能を活用して質問しながら学ぶことができる。

今回の「MEDTaaalk」では4テーマII一覽参照IIを取り上げ、参加者からは「膨大な情報が要点を押さえてまとめられており、大変分かりやすかった」「自身の授業にも活かせるような内容だったといった感想が寄せられた。

ウェビナーでは、MEDCの藤崎和彦教授が「科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論」をテーマに講演を行った。藤崎教授は2012年から岐阜大の全学共通教育



総合プレゼンターの藤崎MEDC教授

「人文科学・科学論」の授業を担当しており、講演では授業内容のエッセンスを紹介した。参加者からは「医学教育の深さを感じた」「フィードバックの概念が変化していた」などの意見が寄せられた。

ワークショップでは、「効率よく臨床医学を学ぶカリキュラムの構築」や「障害のある医療系学生の社会的バリアを考える」など、医学教育の多様な課題に対する取り組みを行った。

「MEDTaaalk」の4テーマ

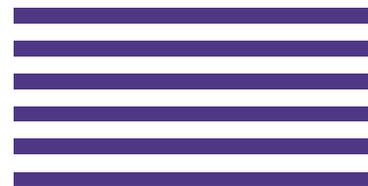
- ①カンファレンスの観察社会学 - 個別指導と全体的教育の二律背反等を事例として
- ②コミュニケーションを測ること、評価すること
- ③医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう
- ④臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator: CRC) のレジリエンス

文教速報  
2025.2.28(金)

# 拠点活動

# 拠点活動

## そら —学びの宙の報告—



### スターターキット

これから医療者教育学に関わることが多くなるかという教職員のためのeラーニングです。いつでも履修できます。

### セミナーとワークショップ

これまでのべ1万3千人以上の方に参加していただいている、我々の代名詞の企画。新しい医療教育の開発研究と普及を促すべく、年3回開催する全国セミナーです。

### メドギフト

ちょっと深く学んでみたくなりそうの方にピッタリのプログラムです。約4か月間のコースで、連続する課題を通じて、自身の教育実践の省察や受講者との楽しい議論を通して学べます。

### 指導者の教育力アップを目指して

MEDCは共同利用拠点として、全国の指導者の指導力向上という大きなミッションのひとつを目指して活動しています。医学のみならず、歯学・薬学・看護学・理学／作業療法学等の専門職が集い、協働的に学べる場を提供しています。しかし教育を学ぶニードも、学びたいタイミングも人によりそれぞれです。

そこで、我々は、あらゆる医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラムを構築しています。それらを総称して、学びの宙(そら)と名付けました。これらを通じて、連続的かつ体系的で、職種横断的な学びの旅に参加できることでしょう。

# 医療者教育スターターキット

## Starter Kit for Health Professions Educators

新任教職員・指導者むけ



紹介動画の視聴やコンテンツ、受講登録方法など詳細が確認できます。

### 概要

医療者教育スターターキットは医療者教育学の基本を学ぶeラーニングプログラムです。医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい教職員が教職協働で学ぶことができるプログラムとしてMEDCが開発し（文部科学省・医学教育共同利用拠点 第3期事業）、2021年12月より一般公開しています。LMS（学習管理システム）のMoodleを利用し、Stepごとに動画を視聴し、小テストで確認する内容となっており、「アクティブラーニング」「シミュレーション教育」「学生支援」「OSCE」「ポートフォリオ」「認証評価」「Institutional Research」の7つのStepで学びます。

### MEDC 担当教職員

早川佳穂 西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ  
今福輪太郎 若井仁美 福田ゆう 伊東沙弥  
アラ担娜布其

### 特色・報告

#### FD/SDプログラムとしての導入

2023年に引き続き、スターターキットを用いた組織のFD/SDプログラム導入を推進し、他機関でのFD/SDプログラムを開催すべくマネジメント支援を行ってまいりました。

2024年度は、医学8校、歯学2校、薬学1校、リハビリテーション2校でFD/SD活動にご活用いただきました。

第88回医学教育セミナーとワークショップにおいて、オンライン学習会を開催し、参加者が自由に受講できる機会を提供しました。

#### 教務事務研修内での活用

第25回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修のプログラム内で教材として活用し、20名が修了しました。また、「ポートフォリオ」の教材動画を作成していただいた講師を招いたワークショップを実施し、グループディスカッションを行い、さらに学びを深めました。

#### 利用実績

2021年より開始された一般公開での個人受講と2025年3月までのFD/SD利用者を含め、2,000人以上が登録し、累計728名（うち2024年度登録者268名）が修了しました。

### 今後の課題と抱負

トライアルで実施をしたFD/SDの活用をR7年度は本格的に実施し、さらに多くの医療者教育に関わる教職員が受講できるよう運営を行います。

# 医学教育セミナーとワークショップ

## Seminars and Workshops in Medical Education

最新的话题を学びたい方むけ



これまでの医学教育セミナーとワークショップや、最新の開催情報を確認できます。

### 概要

MEDCでは、全国共同利用拠点として、医療者教育の普及と、新しい医療者教育の開発研究を促すためのFaculty Development (FD) / Staff Development (SD)、「医学教育セミナーとワークショップ」を定期的に開催しています。令和2年度より、春、秋、冬3回の定期開催となり、春は教務事務研修 (p37参照)、秋は全国の医療系大学との共催とすることで、より幅広い医療者教育関係者とともに、多職種にわたる参加者へ、その時代のニーズにあったテーマのFD/SDを届けています。またより多くの方に気軽にご参加いただけるように、主に冬はWeb開催としています。

### MEDC 担当教職員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 野村理  
今福輪太郎 早川佳穂 高橋美裕希 鷹羽律紀  
若井仁美 福田ゆう 藤井梨恵子 窪田恭子  
阿拉坦娜布其 伊東沙弥

### 第88回 医学教育セミナーとワークショップ

5月22日～24日

第25回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修との併催で実施しました。

(参加者185名 講師20名 Web開催)

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/medicaleducation/seminarworkshop/pdf/88sw.pdf>

### 第89回 医学教育セミナーとワークショップ in 愛知医科大学

10月26日

愛知医科大学にて、対面開催しました。1つのセミナーと8テーマのワークショップを実施しました。(参加者125名 講師43名 愛知医科大学にて開催)

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/medicaleducation/seminarworkshop/pdf/89sw.pdf>

### 第90回 医学教育セミナーとワークショップ

1月23、24日

2日間Web開催しました。セミナーと6テーマのワークショップに加えて、4つのテーマのMEDTaaalkを実施しました。(参加者227名 講師37名 Web開催)

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/medicaleducation/seminarworkshop/2025/90th/pdf/90sw.pdf>

### 今後の課題と抱負

新型コロナウイルス感染の落ち着きを受け、制限が緩和され、対面開催のニーズも高まる一方で、空いた時間に参加できるためWeb開催も満足度が高くなっています。いろいろなニーズに応えるFD/SDを提供していきたいです。

# アソシエイト会員制度

## Associate Membership

学びの<sup>そら</sup>宙を頻繁にご活用される方へ



アソシエイト会員認定に必要な単位（ポイント）の詳細などがご確認できます。

### 概要

アソシエイト会員認定制度はフェローシッププログラム（p35参照）の1つとなります。MEDC主催の医学教育セミナーとワークショップの各領域の企画に一定数参加され医学教育の基本を学ばれた方をアソシエイトとして認定する制度となっています。医学教育の基本領域として、教育方法（TL: Teaching and Learning）、評価（A: Assessment）、カリキュラム開発（CD: Curriculum Development）、運営/リーダーシップ（ML: Management/Leadership）、研究（R: Research）の5つが設定されており、要件に定められた単位を取得することで認定されます。

### MEDC 担当教職員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 今福輪太郎  
野村理 早川佳穂 若井仁美 福田ゆう  
伊東沙弥

### 特色・報告

#### 令和6年度の認定者

令和6年度は12名がアソシエイトとして認定されました。職種の内訳は医師5名、看護師1名、理学療法士1名言語聴覚士1名、臨床検査技師1名、その他3名となっています。

#### 多職種にひろがるアソシエイト認定者

2016年に初めての認定者が誕生以来、8年目となるこの制度ですが、本年度、認定者が125名となりました。職種の内訳は医師53名、歯科医師19名、薬剤師6名、看護師17名、理学/作業療法士8名、その他22名と多職種にわたっています。

### 今後の課題と抱負

アソシエイト認定者の皆さんと継続的に学んだり、交流できる機会を提供できるように企画を準備しています。MEDCのアソシエイトは多職種での交流が特色でもありますし、共に学ぶ企画を提供していきたいです。

# フェローシッププログラム

## Fellowship Program

自らの教育実践をもとに医療者教育を学びたい！



フェローシッププログラムの最新のコース「メドギフト」の詳細が確認できます。

### 概要

フェローシッププログラムは全国の医療者教育者向けにMEDCが提供するプログラムで（文部科学省共同利用拠点第2期事業）継続的かつ体系的に医療者教育者の能力開発を支援するFDです。具体的には「アソシエイト認定（p34参照）」とオンラインコース「メドギフト」の修了で「MEDCフェロー」として認定されるプログラムです。本項目では主に自身の教育実践を振り返り、多職種を受講者間で意見交換をしながら医療者教育について学ぶ「メドギフト2024」に関して報告します。

### MEDC 担当教職員

早川佳穂 今福輪太郎 西城卓也 川上ちひろ  
若井仁美 福田ゆう 伊藤沙弥

### 特色・報告

#### メドギフト2024

令和6年3月4日～5月31日の期間で実施し、医師6名、看護師3名、理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、臨床工学技士1名、臨床検査技師1名、社会福祉士1名、柔道整復師1名の計18名が受講しました。学習管理システムのMoodleを利用し、教育方法、学習評価、プログラム評価などの基本を受講者自身の教育実践の振り返りや受講者同志のオンライン上でのディスカッションを通して共に学びました。また、今年度も2回のオンライン開催のワークショップへの参加を必須としました。1回目は4月1日に実施し、これから共に学ぶ、グループのメンバーとの交流を深めることを目的とし、2回目は5月3日にまとめの会として実施しました。

#### MEDCフェロー

令和6年度も多職種の9名がMEDCフェローとして認定され、総計78名となりました。

#### 今後の課題と抱負

今年度を多くの職種の皆様にメドギフトをご受講いただきました。また1月に実施したセミナーとワークショップでは2023年のメドギフトで学んだグループでワークショップを企画いただきました。このように、継続的な交流と学びができるような機会や企画を提供していきたいです。

MEDC機関誌

# 新しい医学教育の流れ

Trends in Medical Education

医学教育の潮流を知りたい方向け



過去に「医学教育セミナーとワークショップ」に参加された方は、全文閲覧が可能です。

## 概要

医療人の育成および教育に関する活動報告や情報提供、意見交換を目的とした機関誌として、MEDCは「新しい医学教育の流れ」を発刊してきました。これまで医学教育セミナーとワークショップの報告書としての特色が強かった本誌は、2015年（15巻1号）より、医療者教育に携わる方々からの活動報告や総説、意見などの論文を掲載する機関誌として刷新を図り、2020年（第20巻2号）にはオンラインジャーナルとして発刊しています。2024年度は、「医学教育セミナーとワークショップ」の開催にあわせて、3号を発刊しました。

## MEDC 編集担当

今福輪太郎 野村理 早川佳穂 西城卓也  
川上ちひろ 鈴木康之 藤崎和彦 藤井梨恵子

## 特色・報告

### オンラインジャーナル

冊子体として発刊していた機関誌をオンラインジャーナル化することで、利用者の本誌へのアクセス・利便性を高めることができました。一方で、各号の論文や報告ごとの閲覧およびダウンロードは整備中であり、さらなる改善をしていきたいです。

### 掲載論文

2024年度は、活動報告「SDGsの視点から看護師確保の問題を考える」、主張「社会的背景と臨床検査技師の教育」など4編の投稿論文が掲載されました。より多くの多職種からの教育実践報告や意見等をお待ちしております。「セミナーとワークショップ」の報告に加えて、医療者教育に関する内容のさらなる充実が今後の課題となります。

## 今後の課題と抱負

本誌を広い読者に届けるために、「医学教育セミナーとワークショップ」に参加された方以外の方への公開も検討していきます。その際の論文ごとの閲覧性を高めるなど工夫も必要となります。

# 教務事務研修

## Staff Development

医療者教育に携わる事務の方へ



### 対象・期間

全国医学部歯学部教務事務職員  
5月23日～5月24日

### 特色・報告

#### 全面オンライン化

2021年度からZoomやMoodleを駆使したWeb開催となり、前後の移動が不要のため2022年度以降は移動を含めた3日開催から朝～夕2日間の開催になりました。

#### FDとSDの融合

両日とも医学教育セミナーとWSに参加している、教員や臨床現場での指導者と協働のプログラムとして、一緒に学び議論をしながらFDとSDの融合する機会となりました。

#### スターターキットの活用

別項でも紹介しているスターターキットのMoodleを視聴して、研修の事前準備に活用したり、たくさんのフィードバックをいただきました。

### 概要

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（教務事務研修）は国立大学医学部長会議の教育制度・カリキュラムに関する委員会と全国医学部長病院長会議医学教育委員会の主催で、2001年に岐阜大学に全国共同利用施設として医学教育開発研究センター（MEDC）が設立されて以降、年に一度、開催されている研修会です。

### 今後の課題と抱負

全国共同利用拠点第3期事業のテーマとして掲げる「FDとSDの融合」をさらに発展できるよう、スターターキットのより良い活用を各大学と模索しながら、さらに効果的な学びの場を目指して参ります。

### MEDC 担当

藤崎和彦 早川佳穂  
若井仁美 福田ゆう 伊藤沙弥

# ホームページ/Facebook/X

Home Page/Facebook/X

インターネットを通じた情報発信



## 特色・報告

MEDCのホームページ  
～MEDCは、医療者教育の新しい潮流を創ることに挑戦し続けています～

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>

MEDCの紹介とともに、MEDCが提供する「医療者教育の学びの宙」、オンラインジャーナル「新しい医学教育の流れ」にアクセスしやすいトップページとなっています。さらに「医療者教育の学びの宙」のコンテンツとして医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラム「セミナーとワークショップ」「教務事務職員研修」「アソシエイト認定制度」「フェローシッププログラム」「医療者教育スターキット」のページを設け、医療者教育を学びたいかたのニーズに合わせたプログラムの案内をはじめ、最新情報を載せています。また、大学院の紹介として「医療者教育学専攻修士課程」「医学教育学博士課程」のページを設けており、それぞれの特徴や、卒業生の声などもお届けしています。また令和4年度より、セミナーとワークショップ受講者と講師が資料共有できるスペースを含めた「マイスペース」を提供し、受講状況やアソシエイトポイントも確認しやすくなりました。今後も多くの医療者教育に関わるかたの学びへの入り口として、更新していきたいと考えています。

## MEDC 担当教職員

早川佳穂 福田ゆう

## 特色・報告

### Facebook

Facebookでは、MEDCで企画しているイベントの告知や、実施報告を行っています。随時情報を発信しており、申し込みサイトのリンクを添付していますので、申し込みをしていただけます。

### X

2020年からX（旧 Twitter）を開始し、教員や博士課程の学生の論文紹介など行っています。SNSの情報発信を通じて、皆さんとのつながりを作っていきたいと思います。



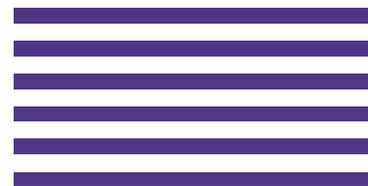
## MEDC 担当教職員

川上ちひろ 早川佳穂 阿拉担娜布其

# 大学院教育

# 大学院

## —教育研究の推進—



### 博士課程

医学教育・医療者教育に関する国際学術誌に研究論文を掲載すべく、これまで築いた研究者との国際的なネットワークを生かしながら、協働的・学際的にハイレベルな研究指導を行う体制を築いています。

### 修士課程

医療の質向上に寄与する医療者教育を展開し先導すべく、多職種の人材と連携しながら、医療者教育に貢献できる人材を育成するための課程です。

### 研究領域

原則として、履修生の教育実践やこれまでの経験から研究テーマやリサーチクエスチョンを設定して、研究指導を進めています。特に、質的研究方法や理論的枠組みを用いた研究デザインに力を入れています。

## 大学院医学系研究科の一部門として

MEDCの教員は、医科学専攻の医学教育分野の博士課程、そして医療者教育学専攻の医療者教育学の修士課程にて、大学院生指導と研究推進を担っています。いずれの課程においても、医師のみならず様々な医療系職種の指導者や、医療系教育機関の教員の方々など広く門戸を開いています。

特に医療者教育学修士課程は、2020年に国内で初めて設立された課程です。卒業生は体系的に医療者教育学と教育研究の基本を学び、修了しています。国内でリーダーシップを発揮し、医療者教育の活動を推進していくべく、オピニオンリーダーになることが期待されています。

# 医学系研究科医療者教育学専攻(修士課程)

Master's course of Health Professions Education

コンピテンシー

教育能力、教育設計力、先導力、協働力、学識の発信力



## 対象・期間

修士課程1-2年生 13名  
4月1日～3月31日

## 特色・報告

### 対面型授業（スクーリング）

24年度のスクーリングは全日程を対面にて開催しました。学生同士で顔を合わせて話し合ったり、講師に直接質問できたりする対面授業の環境はコロナ禍を経てあらためて気づかされた強みです。

### 非同期型学習

スクーリング後、学生は各科目の課題をMicrosoft TeamsやMoodleを活用しながら取り組みました。対面型授業と非同期型e-learningをブレンドすることで、効果的な学習機会を提供することができています。

### 4期生の修了

23年度入学の4期生7名が、学位審査会を経て本課程を修了することができました。自身の教育実践を批判的に吟味し、「教育プログラムを経たその後の経験を通じた認識調査」や「質問やインタビューを通じた質的・量的分析」などに関する研究プロジェクトに取り組みました。今後の修了生の医療者教育での益々の活躍が期待されます。

## 概要

本課程は、1年次で「多職種連携」「教育方法と評価」「日本に相応しい教育設計」「人材育成」「マネジメント」等を教育理論と関連づけながら体系的に学びます。2年次では、1年次の学びを活かしつつ、自身の教育実践から湧き起こる研究課題を修士論文として取り組みます。

## ミッション

本課程は、グローバルな視点を有し、多職種の人材と連携しながら、医療者教育を設計、実践、改善、発信できる能力の持つオピニオンリーダーの育成を目指します。

## MEDC 担当教員

西城卓也 今福輪太郎 川上ちひろ 早川佳穂  
野村理 藤崎和彦 鈴木康之

## 今後の課題と抱負

修了生のコミュニティ形成や博士課程とのつながり、MEDCとの関わり方を一層深めていけるよう取り組んでいきます。

# 医学系研究科医科学専攻医学教育学分野(博士課程)

## PhD course (Medical Education)

コンピテンシー

研究能力、学識の発信力



### 対象・期間

博士課程1-4年生  
4月1日～3月31日

### 概要

本課程では、大学院生が各自の教育分野に応じて、独自の研究テーマを設定し、積極的に研究活動を行っています。研究成果の国際誌への掲載を目指し、MEDC教員が研究指導にあたっています。現在、7名の大学院生（博士課程）が在籍しています。

### ミッション

本課程の修了者は、医学教育学の専門家として、教員、医療者、学生等を指導でき、教育システムを自ら構築、改善し、研究を遂行できることを目標としています。

### MEDC 担当教員

西城卓也 今福輪太郎 川上ちひろ 早川佳穂  
野村理 藤崎和彦 鈴木康之

### 特色・報告

#### 個別のニーズに応じた定期的な研究指導

社会人大学院生として所属先の業務と両立させながら研究を進めていくため、研究計画、データ収集・分析、論文執筆と個々のニーズにあわせながら指導を行っています。研究指導は、対面に加えてオンラインで実施することで忙しい大学院生でも無理なく着実に研究を進められています。

#### 修士課程からの継続的な研究活動

博士課程での研究計画・実施に先立って、修士課程2年次の選択科目として「医療者教育研究のプロトコール立案」を提供しています。ここでは、博士課程での研究に向けた準備期間として、進学希望者に対して早い段階から研究計画を意識づける取り組みを行っています。修士課程での本科目を履修し博士課程に進学した大学院生は5名在籍し、研究を進めています。

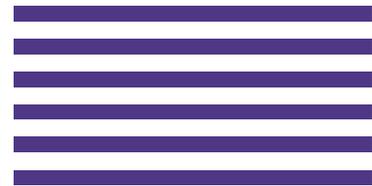
### 今後の課題と抱負

社会人大学院生が多忙な中で動機づけを保ちながら研究を遂行するために、学生間での交流促進、教員によるメンタリングについて、引き続き検討していきたいです。

# 卒前教育

# 卒前教育

—医学生の学びを支える—



## 低学年

地域の住民との交流や施設の訪問などを体験できるearly exposureや、コミュニケーションの基本を学ぶ実習を担っています。

## 中学年

研究室体験から医療面接の基本や人のライフサイクルを理解するために必要な人文社会学系の授業も取り入れています。

## 高学年

臨床実習の準備教育を担っています。また、OSCEなどの評価について学部や医師育成推進センターと連携して運営に参画しています。

## 医学部医学科の一部門として

MEDCは、岐阜大学の医学部の卒前教育にも深く携わっています。岐阜大学医学部は伝統的に問題基盤型のテューリアル教育を主体としたカリキュラムを組んでいます。近年は、それに固執することなく、様々な教育アプローチを積極的に導入し、学生の学びを最大限に引き出すべく、

ICTを駆使した新しい授業や実習を推進しています。MEDCのカバーする科目は実に多様です。我々のネットワークを生かし学内の他講座のみならず、他大学・岐阜県内外の様々な医育機関とのコラボレーションを図ってユニークな授業の提供に努めています。

# テュトリアル教育

## Problem-based Learning

コンピテンシー

医学知識、問題解決能力

### 対象・期間

医学科2-4年生の各講座の学習に毎週導入

### PBL 概要

基礎医学や臨床医学を体系的に学習するために、学生は多くの知識を吸収し、同時にシナリオに基づくグループ討議を通じて問題解決能力を育みます。

### PBL の狙い

知識を吸収し記憶に定着させるために様々な教育アプローチがありますが、教科書を丸暗記するやり方では真の知識獲得とはいえません。PBLでは、実世界で直面する問題（シナリオ）提示から学習が始まり、学生間での議論を通じて、問題を自ら解決する経験と思考過程を重視します。

### PBL テacher

岐阜大学医学部医学科の全教員が参画しています。MEDCは基礎系講義と臨床系講義との両方のテューターを幅広く担当しています。

### 報告

岐阜大学医学部のPBLチュートリアルは、1995年から2024年まで、問題基盤型学習の理念に基づき、協働学習や自己主導的学習を促進してきました。

しかし、近年の環境変化により、いくつかの課題が、学生、教員、環境の領域それぞれにおいて顕在化しました。

まず学生数の増加に伴い、グループダイナミクスの低下や、議論より文字によるコミュニケーションの増加が見られました。また、教員数の減少と業務の多忙化により、テューターの負担が増大し、指導への意欲が低下する傾向がありました。さらに、ICTやAIの台頭など含む学習環境の変化により、コアタイムの頻度減少やオンライン討議の導入が、従来の学習サイクルの維持を困難にしました。

これらの要因が積み重なり、PBLの効果的な運営が難しくなったことから、四半世紀にわたり続いた本カリキュラムは今年度をもって終了することとなりました。

### 今後の課題と抱負

現在は新たに課題探究心の向上を図るべく、プロジェクト基盤型学習を新たに採用し、学生が各講座で研究活動に取り組むトライアルを予定しています。持続可能で現代の教育のニードと方法論をブレンドさせた新カリキュラムを医学部で協働して構築してまいります。

# 医学概論

## Introduction to Medicine

コンピテンシー

医学・医療の包括的知識を身につける



### 対象・期間

医学科1年生  
4月11日～8月1日

### 特色・報告

#### コミュニケーション体験

医療を行う上で患者や多（他）職種実習とのコミュニケーションは非常に大切です。6年間の授業や実習でも必要となるコミュニケーションを体験する最初の授業です。

#### 看護学科との合同授業

医療の重要なパートナーの一人となる看護学生と交流できる、学生時代では貴重な授業の機会です。この授業では、他職種の基本が学べるよう、看護学科の先生とも協力して実施しています。

#### オンラインを取り入れた授業

授業ではICTシステムを取り入れています。スマートフォンで簡単なクイズに答えてもらうなどの工夫をしています。また、Microsoft Teamsで授業の事前アナウンスや感想を記入してもらうなどに利用しました。Web会議システムを用いて授業を行っています。

### 実習概要

6年間の医学教育課程のスタートとして、医学とは何か、人間の本質とは何か、医学の成り立ち等、多彩な講師によるオムニバス形式で実施されています。

### 学習内容

MEDCでは以下の2コマを担当しています

- ① 「なぜ患者さんとのコミュニケーションは難しいのか」 5/29  
：患者と医療者のコミュニケーションの基本を知る
- ② 「多職種連携医療を体験してみよう」 7/4

### MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ

### 今後の課題と抱負

医学生が大学生になり最初に受講する授業ですので、医学・医療とは何かについて、興味を持てるような話題提供ができるようにしたいと考えています。

# テュトーリアル選択配属

Research Experience (Elective)

コンピテンシー

リサーチマインド、批判的思考力、自己学習能力



## 対象・期間

医学科2年生  
1月6日～3月14日

## 実習概要

10週間で研究計画の立案、実施、分析、発表までを体験する科目です。学生自身が興味のある研究課題を見出し、主体的に研究活動を行います。

## 学習目標

医学教育学の選択配属では、学生の主体的な研究立案、データ収集・分析、考察、発表といった研究の一連の流れを体験することで、学生の探求心、研究に対する基本的理解の向上やエビデンスに基づく思考力、主体的な学習態度を涵養し、さらにチームメンバーや研究にご協力いただく方との交流を通して、コミュニケーション能力やプロフェッショナリズムを育むことを目標としています。

## MEDC 担当教員

西城卓也 野村理 川上ちひろ 早川佳穂  
藤崎和彦 鷹羽律紀 高橋美裕希

## 特色・報告

### 主体的な研究活動

学生の問題意識を研究課題にすることで、主体的に取り組める工夫をしています。文献の共有や、分析、資料作成は同期型・非同期型をブレンドし、効率的に研究を進めています。

### 質的研究/量的の経験

研究テーマにあわせて量的研究と質的研究の実施を促しています。

### フィールドワーク

研究の調査目的に学生がフィールドワークを計画し、教員が引率して実施しています。令和6年度は高山市でのフィールドワークを実施しました。

### 学会発表

選択配属終了後の学生が、『ジェンダーフリーな初期研修の実現のために何が必要か：医学生と指導医の視点から』を令和6年8月開催の日本医学教育学会で発表を行い、Student Awardを受賞しました。

## 今後の課題と抱負

集中して学生が研究に取り組むことで、学習目標の到達に近づく一方で、ここで養った力を継続的にのばしていくことが課題であると考えられます。研究室選択配属終了後のフォローアップにも力を入れていきたいと思います。

# 地域体験実習

Community-based learning

コンピテンシー

自ら学ぶ、学びや体験を表現する



## 対象・期間

医学科1年生  
10月3日～11月21日

## 授業概要

岐阜県の医療制度などを学び、また岐阜に暮らす住民との交流によって、それらがどのような関連しているのかを学びます。さらに医療系学生として何が必要なのかを考えます。

## 学習目標

人の発達過程を学ぶ、地域の医療・保健制度を知り住民との関係を理解する、地域の住民との交流を通じてコミュニケーションスキルやマナーを理解し実践できる、医療者としてのプロフェッショナリズムやデジタルプロフェッショナリズムを学ぶ、フォトボイスを作成し発表する、ことを目標としています。

## MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 野村理  
今福輪太郎 早川佳穂 高橋美裕希 鷹羽律紀

## 特色・報告

### 岐阜県のことを知る授業

岐阜県の地理、医療保健制度、疾病の特徴、地域の様子などに興味を持ってもらうことができました。授業での学びをフォトボイスにまとめ、ふりかえりと発表をします。

### コミュニケーション体験

シニア世代、母親世代など様々な領域のパートナーにご協力いただき、コミュニケーション実習を行います。

### オンラインを取り入れた授業

Web会議システムを活用したオンライン実習や、Microsoft Teamsを用いたグループ学習などを織り交ぜて実施しています。

### 様々なエキスパートの招聘

オンライン授業のおかげで、多くの学外の先生方の講義等を受講することができます。

## 今後の課題と抱負

自己学習・グループ学習と、地域での様々な体験とが、効果的にリンクできるような仕組みを作りたいと考えています。この授業で学びをフォトボイスや今後の行動に落とし込めるような問いかけを工夫したいと考えています。

# 医師患者関係

## Doctor-Patient Relationship

コンピテンシー

コミュニケーション



### 対象・期間

医学科4年生  
6月24日～6月28日

### 実習概要

1年生の初期体験実習、地域体験実習と4年生のOSCEをつなぐ意味で、医師患者関係と医師患者コミュニケーションの基本を体験学習を通じて学ぶも授業です。

### 学習目標

医師患者関係の基本とコミュニケーションのポイントについて理解し、良好な医師患者関係形成のための基本的なコミュニケーション技能を体験学習を通じて体得します。

### MEDC 担当教員

藤崎和彦 今福輪太郎 西城卓也 川上ちひろ  
早川佳穂 高橋美裕希 鷹羽律紀

### 特色・報告

#### 初診の医療面接の基本を学ぶ

臨床実習前 OSCE の学習評価項目をもとにした動画を作成し、教材とした。医療コミュニケーションの基本を学んだ後、医療面接をパートに分け、パートごとにレクチャーと相互練習を組み合わせた授業を実施しました。

#### 模擬患者との初診医療面接実習

臨床実習前 OSCE と同じような環境で、模擬患者との初診時医療面接を実施し、そのパフォーマンスを教員が評価し、即時フィードバックを行いました。

#### 多様な医療面接を学ぶ

行動変容の LEARN のモデル、Bad News Telling の SPIKES モデルといったアドバンスなテーマを扱い、実際に模擬患者との面接やグループディスカッションを通して学びました。また、多文化共生社会における医療コミュニケーションをテーマとし、やさしい日本語でのコミュニケーションを学びました。

### 今後の課題と抱負

昨年に引き続き、学生がアクティブに学んだり、動画教材を活用し、いつでも復習できるように工夫しました。来年度はさらに授業内容を見直し、多様な患者への理解を深めるように改善します。

# 臨床推論(西洋医学的アプローチ)

## Clinical Reasoning

コンピテンシー

医学知識と問題対応能力をつける



### 対象・期間

医学科4年生  
9月30日～10月18日

### 特色・報告

#### オンライン化

Microsoft TeamsやWeb会議システムを駆使し、オンライン授業と対面での演習を織り交ぜて実施しています。

#### 様々なエキスパートの招聘

同期型のオンライン授業のおかげで、望月礼子先生(鹿児島大学)や清水郁夫先生(千葉大学)、高橋慶先生(医療生協さいたま生活協同組合川口診療所)の貴重な講義を、学生に提供しています。

#### 模擬カンファレンス

評価も重要であると考えています。臨床実習で症例カンファレンスで堂々をプレゼンテーションし、臨床推論の議論に参加できるよう、模擬症例カンファレンス形式の口頭試問法を開発し実施しています。

### 授業概要

臨床実習準備の一環として、総合内科学等と共同実施している科目です。この実習の直後の臨床実習に必要なスキルの土台を作るのに役立っています。

### 学習目標

本コースはどの科でも必要・基本となる臨床能力と知識を身につけることを目標としています。そして様々な症候に対して病歴・診察を通じて診断にたどり着く思考、そしてその症例呈示ができる力を身につけます。

### MEDC 担当教員

西城卓也 川上ちひろ

### 今後の課題と抱負

この実習の次の科目が「ライフサイクル」で、症例を社会医学的なレンズから考察する授業を行います。その授業と連動させて、患者の診断に必要な臨床推論(医学)のレンズと社会的レンズから患者さんを見られるようカリキュラム開発を進めたいと考えています。

# ライフサイクル

Life cycle

コンピテンシー

人間の生き方を知る、医学知識を問題解決に応用する



## 対象・期間

医学科4年生  
10月21日～10月25日

## 授業概要

様々なライフサイクルを経る人間の一生を生物心理社会モデルの視点でアセスメントします。そしてそこで起こる問題や課題に対して、これまで学んできた知識を応用して問題解決方法を考えます。

## 学習目標

多職種で高齢者や家族の支援を議論できる、人の発達の特徴と課題を説明できる、家族のライフサイクルやシステムについて事例を通じて議論できる、情報・科学技術による医療・介護・福祉の変容が予測できることを目標とします。

## MEDC 担当教員

西城卓也 川上ちひろ

## 特色・報告

### 他の医療系大学との多職種連携授業

岐阜大学医学部医学科は、岐阜県内の他の医療系大学（朝日大学、朝日大学歯科衛生士専門学校、岐阜市立女子短期大学、岐阜薬科大学、平成医療短期大学）と連携授業を行っています（10/21）。

### 学内の様々な領域の医師との連携

臨床実習で指導いただくことになる精神科、産科婦人科、脳神経内科などの医師に動画教材の作成を依頼することで、臨床実習までに学んでおいてほしい知識の準備をしています。

### オンラインを取り入れた授業

多職種連携授業では、Web会議システムを用いて授業を行いました。また、ライフサイクルに関する動画教材を多く作成し、Microsoft Teamsを用い、自己・グループ学習のきっかけをつくっています。また最終日にはグループで作成した課題発表と共有を行います。

## 今後の課題と抱負

「臨床推論」と関連した授業構成であるため、双方の授業が効果的に学べるような進め方を工夫したいと考えています。動画教材を多く視聴してもらい、グループワークで課題解決を検討するように促していますが、有意義なグループワークができるよう課題提示を工夫したいと考えています。

# 医療英語・国際交流

Medical English・International communication

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力



## 対象・期間

医学科4-5年生  
課外実習(3月~6月:計5回)

## 実習概要

本課外実習は、6年次の選択臨床実習期間に海外の医療機関での実習を希望する者を対象とした準備教育です。英語による医療面接や身体診察、症例報告を模擬患者や講師とのロールプレイを通じて学びます。

## 学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察を含む患者コミュニケーションに必要な英語表現を習得します。実習先の指導医や医療者間の会話内容が理解できる英語力を目指します。

## MEDC 担当教員

今福輪太郎 早川佳穂 野村理 西城卓也

## 特色・報告

### 外部講師の招聘

英国で医師としての臨床経験があり、日本での医療英語教育に精通している外国人講師を招聘しています。

### 外国人模擬患者の協力

本課外実習では実践的な学びを促すため、外国人市民や留学生に模擬患者として参加してもらっています。

### 対面授業とオンライン授業の組み合わせ

本課外実習は基本的にオンラインで開催しましたが、身体診察に関する実習は対面にて実施しました。学習内容に応じて対面授業とオンライン授業を効果的に使い分けることができました。東海国立大学機構として名古屋大学の学生3名も参加しました。

### 海外臨床実習

24-25年度は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、タイ、韓国などへ延べ14名が実習参加しました。

## 今後の課題と抱負

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、来日外国人の急増などにより、外国人への診療対応能力が標準的に求められる時代が到来しつつあります。より多くの医学生が受講できる形態に本コースを刷新していく必要があります。

# 英語OSCE

English OSCE

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力



## 対象・期間

医学科5年生  
課外実習（6月22日）

## 実習概要

海外臨床実習の希望者対象の準備教育の総括として、英語OSCEを実施しています。試験は3～4ステーションで構成され、症例シナリオが提示されたあとに、医療面接や症例報告に関する実技試験を行います。

## 学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察において必要なコミュニケーションや英語表現や態度、非言語コミュニケーション能力等を総合的かつ形式的に評価し、今後の学習につなげることも目的としています。

## MEDC 担当教員

今福輪太郎 野村理 早川佳穂 西城卓也

## 特色・報告

### オンラインOSCEの実施

昨年はオンラインでの実施でしたが、新型コロナウイルス感染の収束に伴い、今年度は本学のチュートリアル室において、対面での開催が可能となりました。英語話者の模擬患者に協力いただき、教員を評価者とし、英語での実技試験を実施しました。岐阜大学の学生18名、さらには東海国立大学機構の連携プロジェクトとして、名古屋大学の学生2名も参加しました。

### 卒業生の協力

学生時代に医療英語ワークショップの受講と英語OSCEの受験を経験し、海外臨床実習に参加した卒業生1名にOSCE評価者として協力してもらいました。

### 評価方法の工夫

新たな試みとして、評価表に記載された模擬患者さんからのコメントを受験生にフィードバックしました。

## 今後の課題と抱負

海外臨床実習の資格ともなることから、評価の信頼性および妥当性の検証が今後重要となると考えられます。医療英語試験であるOccupational English Testも参考になると考えられます。

# 里親(里子)支援

## Student Support

コンピテンシー

心身の安定をはかる、学生相互交流をする

### 対象・期間

医学科1～6年生 通年

### 概要

MEDCに割り振られた学生（1学年3名～8名程度）と授業外でつながりを持ち、定期的に面談を行います。

学生の状況把握と、困りごとへの相談に対応します。

### 目標

学生が心身ともに健康な状態で学業に望むために、基盤を作ります。学内で、クラスやサークル以外でのネットワークを作ります。

### MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 野村理  
今福輪太郎 早川佳穂 高橋美裕希 鷹羽律紀

### 特色・報告

#### 活動内容

教員とのつながりを持つため、定期的に面談を行なっています。そこでは学生相互の交流も行います。

また、定期的にイベントを計画し、学年を越えた交流も行っています。また卒業生ともつながりを持ちながら活動を行っています。

#### 連絡方法

里子学生とは、Microsoft Teamsを通じて、連絡等を行なっています。

### 今後の課題と抱負

里親－里子関係は、主となる学生支援ではなく、緩いつながりです。学生によっては不要と感じることもあるかもしれませんが、学生支援におけるセーフティネットの一つとして機能することを期待しています。

# 学内活動・学外活動

# 指導医講習会

## CLINICAL TEACHER TRAINING@GIFU PREFECTURE

岐阜県では、岐阜県医師育成・確保コンソーシアムが初期臨床研修医の指導に当たる岐阜県内の研修病院の指導医への講習会を、年に2回2日間で主催しています。様々な臨床研修にまつわる話題や指導医の教育スキルとして頻用されるコーチング、フィードバック、評価などに焦点を当てて講義と演習を行っています。MEDCは講習会責任者の一端を担い、講習会を編成・運営しています。令和6年度も、初日はオンライン講習会、二日目は対面講習会とし、有機的に組み合わせ開催いたしました。このような教育に関する講習会が研鑽ではなく研修と認知されることにも伴い、これからも働き方改革、医師の多様なキャリア、子育て世代の指導医といったニードにも呼応して講習会の改革を進めてまいります。

# ユニットの会

## UNIT ASSOCIATION

MEDCは、全国の医学部や大学病院にある医学教育に関連する部門が集う“ユニットの会”を設置し、岐阜大学MEDCの事務局のもとに全国の幹事校の皆様とともに運営しています。医学教育ユニットの会における活動は、主に2つあります。1つはメーリングリストによる情報共有であり、実情や改善のアイデアを共有するようなアンケートを実施したり、各大学でのセミナーやワークショップなどの開催案内、新モデルコアカリキュラムに関する情報共有が活発に行われています。もう1つは総会で、年に一度の日本医学教育学会大会に顔合わせを兼ねて実施されており、2024年の第56回帝京大学での大会でも対面でのユニットの会総会を開くことができました。令和7年度はより拠点活動の効果を全国に波及させられるような交流の場の設定やネットワークの再編成を図ります。

# 臨床スキル・シミュレーションラボ

## SKILLS-LAB

臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）は教育福利棟4階にあり、医療で必要な基本的な技術を、シミュレータ等を用いて演習できる施設です。利用者の多くは医学部医学科学生であり、その利用目的は主に臨床実習や選択臨床実習での臨床実習技能訓練で、小児科、総合内科、外科、泌尿器科がスキルスラボで学生教育を行っています。またOSCE前実習やOSCE試験にも活用されます。今年度もPre・Post CC-OSCEに対する自主練習においては、予約枠を設定することで、すべての希望者が十分練習できるようにしました。また、昨年度に引き続き、HoloLensを使用し、バーチャル患者を診察する教育（地域医療医学センター）を取り入れました。その他、3つのサークル「基本的臨床技能の会」、「Gifu Emergency Medical students」「GIFMSA（国際医学生連盟岐阜）」が定期的に活動を行っています。卒後教育では、研修医のオリエンテーション、看護部の新人研修、さらには特定行為看護師の研修でも利用いただいています。引き続き、学内の皆様が積極的に利用できるような環境づくりを目指してまいります。

# 岐阜大学模擬患者の会

## SIMULATED PATIENT ASSOCIATION

患者役として医療者教育に協力する市民の会です。模擬患者さんのご協力は医療者教育には欠かせないものとなっております。令和7年2月現在、33名（男性10名、女性23名）が活動をされています。本年度も4年生の臨床実習前OSCE、OSCE試験を中心に多くの模擬患者さんに、患者役としてご協力いただきました。さらに1年生の地域体験実習授業内のコミュニケーション実習で学生とコミュニケーションをとっていただいたり、4年生の『患者は語る』の授業で患者や患者家族の体験を語っていただいたりと、幅広くご活躍いただいています。また、令和5年度から臨床実習前OSCEが公的化となり、11名の『認定標準模擬患者』さんに活躍していただきました。

令和7年度も、より充実した活動をしていただけるような支援を行ってまいります。

# 医学教育分野のIR実践

## PRACTICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH IN MEDICAL EDUCATION

岐阜大学医学部医学科では、2017年に「医学教育IR室」が正式発足し、学生及びカリキュラムを統括的に評価する役割を担っています。Institutional Research (IR) とは、学内のデータを収集・分析・報告することによって大学の改善を促すことです。2022年度には、分野別国際認証での指南を反映させるべくプログラム評価委員会が発足し、西城センター長が委員長となり、IR室とより強力な連動性をもった活動として、2023年度からは東海国立大学の連携のもと名古屋大学との匿名化したうえでのアンケートの結果共有の連携が始まりました。2024年7月からは、野村併任講師が着任し、学内の教育改革に必要な調査、名古屋大学とのさらなる連携強化が図られています。

# マギル大学臨床教育研修会

## PRACTICUM PROGRAM ON TEACHING IN THE CLINICAL SETTING AT McGill UNIVERSITY

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムが主催する、カナダのマギル大学における臨床指導医向け国際短期研修会において、MEDCからは西城センター長が日本人サイドのディレクターを務め運営しています。2014・2015・2017・2019そして2023年に岐阜県内の指導医10名ほどを引率し、岐阜県の指導力アップに尽力しています。今まで、総計50名の指導医が修了書をマギル大学から授与されました。隔年でカナダの指導医を岐阜に招聘し、岐阜県内での指導にあたってもらっていますが、令和6年は11月にマギル大学の心臓血管外科医のケビン・ラシャペル教授をお招きして、岐阜市民病院・岐阜大学病院・高山日赤で講演会ツアーを行いました。構造化した教育セッションと目標を据えたうえでのフィードバックを与える重要性についてご講演いただき、大勢の参加者からたくさんの質問を頂戴しました。

## 沿 革

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
1964		岐阜大学に医学部設置
1969		日本医学教育学会の創立 牛場大蔵会長
1973		WHO 主催 第 1 回 Teachers Training ワークショップ開催（豪州シドニー）日本から、牛場大蔵（慶應義塾大）・日野原重明（聖路加国際病院）・館正知（岐阜大医学部長）の 3 名が参加
1974		WHO 主催 第 2 回 Teachers Training ワークショップ開催（豪州シドニー）日本から尾島昭次（岐阜大医学部）ら5名が参加
1995		岐阜大学医学部に国立大学で初めてテュートリアル教育を導入
1997		日本医学教育学会が日本医学会に第 90 分科会として加盟
2000.3. 2000.9.15-17 2000.12.22	第 1 回医学教育セミナーとワークショップ 第 2 回医学教育セミナーとワークショップ 医学教育開発研究センター 設置認可	医学教育学会 尾島昭次会長 32 回医学教育学会（東北大） 東京大学医学教育国際協力研究センター開設
<b>2001</b>  2001.5.29 2001.8.27-30 2001.11.8-10	<b>医学教育開発研究センター開設</b> 客員教授 Chirasak Khamboonruang 先生招聘 記念式典・基調講演・祝賀会（岐阜ルネサンスホテル） 第 3 回医学教育セミナーとワークショップ 第 2 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	33 回医学教育学会（東海大） 医学教育モデル・コア・カリキュラム策定 アメリカ同時多発テロ
<b>2002</b>  2002.5.24-26 2002.8.26-28 2002.11.12-14 2002.11.16-17	知的クラスター創成事業受託 客員教授 Gregg Colvin 先生招聘 スタッフ海外研修（メルボルン大学、シドニー病院視察） スタッフ海外研修（マーストリヒト大学視察） 第 4 回医学教育セミナーとワークショップ 第 5 回医学教育セミナーとワークショップ 第 3 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 6 回医学教育セミナーとワークショップ	34 回医学教育学会（昭和大学） 東京医科歯科大学歯学部医学教育システム 研究センター開設 FIFA ワールドカップ 岐阜大学医学部が司町から柳戸キャンパスへ移転
<b>2003</b>  2003.1.25-26 2003.5.23-25 2003.7.31-8.2 2003.10.25-26 2003.11.12-14	特色ある大学教育支援プログラム（文科省）「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」採択 客員教授 Jutty Ramesh 先生招聘 第 7 回医学教育セミナーとワークショップ（久留米大） 第 8 回医学教育セミナーとワークショップ 第 9 回医学教育セミナーとワークショップ 第 10 回医学教育セミナーとワークショップ（近畿大） 第 4 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	医学教育学会 齋藤宣彦会長 35 回医学教育学会（佐賀医大） SARS

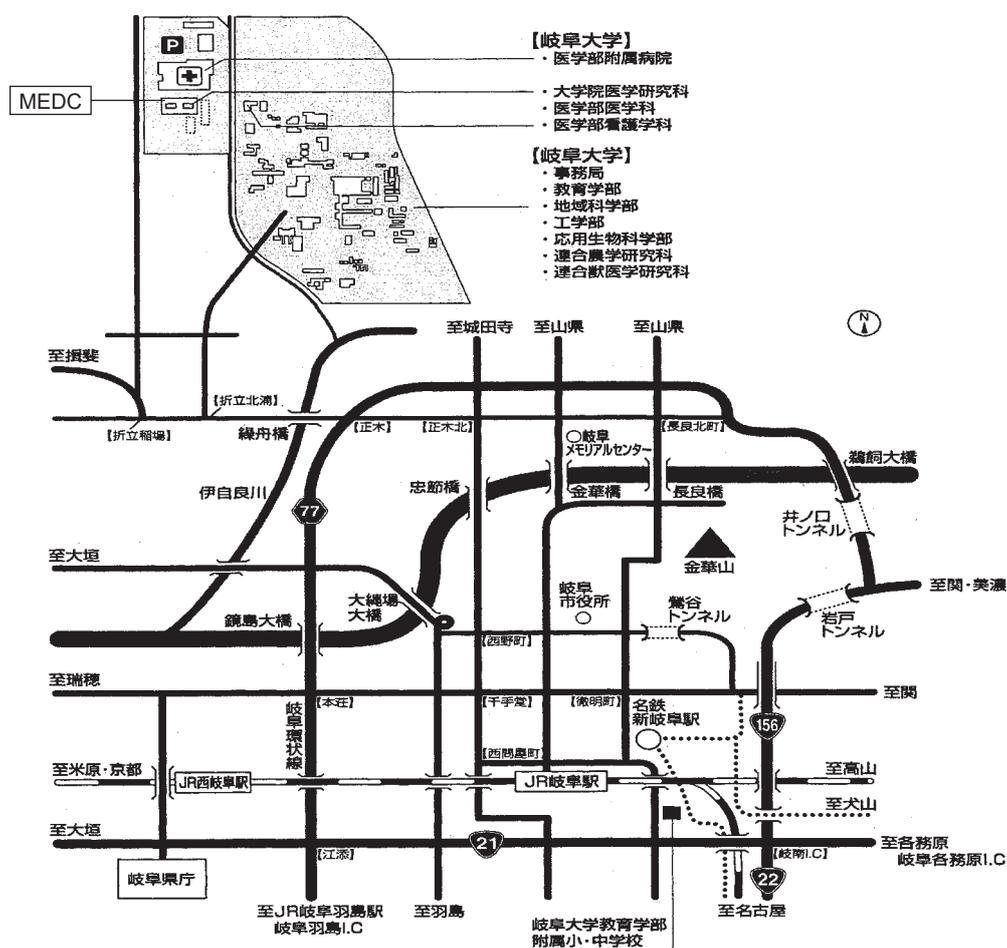
西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
<b>2004</b> 2004.1.31 2004.5.22-23 2004.8.5-7 2004.10.23-24 2004.11.24-26	客員教授 Ratanavadee Nanagara 先生招聘 第 11 回医学教育セミナーとワークショップ 第 12 回医学教育セミナーとワークショップ (藤田医科大) 第 13 回医学教育セミナーとワークショップ 第 14 回医学教育セミナーとワークショップ 第 5 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	36 回医学教育学会 (高知大) 新医師臨床研修制度施行 医療系大学間共用試験実施評価機構 岐阜大学医学部・附属病院移転 スマトラ島沖地震・大津波
<b>2005</b> 2005.1.29-30 2005.4.23-24 2005.8.26-28 2005.11.5-6 2005.11.28-30	スタッフ海外研修 (ハーバード大学) 第 15 回医学教育セミナーとワークショップ (慈恵医大) 第 16 回医学教育セミナーとワークショップ (金沢医大) 第 17 回医学教育セミナーとワークショップ 第 18 回医学教育セミナーとワークショップ (岩手医大) 第 6 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	37 回医学教育学会 (東京大) 共用試験 CBT/OSCE 正式実施 中部国際空港 (セントレア) 開港 愛知万博
<b>2006</b> 2006.1.28-29 2006.4.22-23 2006.8.25-27 2006.10.28-29 2006.11.27-29	客員教授 Phillip Evans 先生招聘 スタッフ海外研修 (スコットランド) 第 19 回医学教育セミナーとワークショップ 第 20 回医学教育セミナーとワークショップ (筑波大) 第 21 回医学教育セミナーとワークショップ 第 22 回医学教育セミナーとワークショップ (横浜市大) 第 7 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	38 回医学教育学会 (奈良医大) 人口減少社会に突入 医療崩壊問題
<b>2008</b> 2008.1.12-13 2008.5.10-11 2008.6.7 2008.8.4-6 2008.10.25-26 2008.12.3-5	<b>医学教育学博士課程開講</b> 客員教授 Jan-Joost Rethans 先生招聘 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ (名城大) 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ (大阪医大) 岐阜大学模擬患者の会 10 周年シンポジウム 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ (日本医大) 第 9 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	40 回医学教育学会 (東京医大) 医学部定員増・地域枠入試導入 リーマンショック 後期高齢者医療制度
<b>2009</b> 2009.1.24-25 2009.5.16-17 2009.8.7-9 2009.10.28-30 2009.11.14-15	現代的教育ニーズ取組み支援プログラム (文科省)「臨床医学教育を強化向上させる ICT」採択 客員教授 Jennifer Cleland 先生招聘 スタッフ海外研修 (グラスゴー大学 OSCE 視察) 第 31 回医学教育セミナーとワークショップ 第 32 回医学教育セミナーとワークショップ (慶應義塾大) 第 33 回医学教育セミナーとワークショップ 第 10 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 34 回医学教育セミナーとワークショップ (札幌医大)	医学教育学会 伴信太郎会長 41 回医学教育学会 (近畿大) 新型インフルエンザパンデミック
<b>2010</b> 2010.1.23-24 2010.5.22-23 2010.8.27-29 2010.10.27-29 2010.11.6-7 2010.12.21	<b>教育関係共同利用拠点認定 (第 1 期)</b> 客員教授 Peter Baton 先生招聘 客員教授 Phillip Evans 先生招聘 アフガニスタン医学教育研修受入 スタッフ研修 (スコットランド医学教育視察) 第 35 回医学教育セミナーとワークショップ 第 36 回医学教育セミナーとワークショップ (東邦大) 第 37 回医学教育セミナーとワークショップ 第 11 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 38 回医学教育セミナーとワークショップ (名古屋大) 10 周年外部評価	42 回医学教育学会 (日本医大) 日本医学教育学会が一般社団法人となる ECFMG 通告 (2023 年問題) 小惑星探査機はやぶさ帰還

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
<b>2011</b>  2011.1.22-23 2011.5.14-15 2011.6.1-3 2011.8.5-7 2011.11.19-20	<b>医学教育開発研究センター開設 10 周年</b> 客員教授 劉 克明先生招聘 外部評価 第 39 回医学教育セミナーとワークショップ（広島大） 第 40 回記念医学教育セミナーとワークショップ・10 周年記念式典 第 12 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 41 回医学教育セミナーとワークショップ 第 42 回医学教育セミナーとワークショップ（千葉大）	43 回医学教育学会（広島大） 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 東日本大震災・福島第一原発事故 FIFA 女子ワールドカップ
<b>2012</b>  2012.1.28-29 2012.5.26-27 2012.6.6-8 2012.8.17-19 2012.10.26-28	客員教授 Farhan Bhanji 先生招聘 スタッフ研修（マギル大学医学教育視察） 医学教育賞懸田賞（西城卓也） 第 43 回医学教育セミナーとワークショップ 第 44 回医学教育セミナーとワークショップ（福島医大） 第 13 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 45 回医学教育セミナーとワークショップ 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ	医学教育学会 伴信太郎理事長 44 回医学教育学会（慶應義塾大） MERS 山中伸弥 ノーベル賞
<b>2013</b>  2013.1.25 2013.1.26-27 2013.5.8-10 2013.6.8-9 2013.8.9-10 2013.11.1-3	スタッフ研修（グラスゴー大学、エジンバラ大学） 第 47 回プレカンファレンス（WFME スタンダード） 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ（琉球大） 第 14 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 48 回医学教育セミナーとワークショップ（京都大） 第 49 回医学教育セミナーとワークショップ 第 50 回記念医学教育セミナーとワークショップ	45 回医学教育学会（千葉大） 医学教育分野別評価トライアル開始
<b>2014</b>  2014.1.27-28 2014.5.13-15 2014.5.24-25 2014.8.8-10 2014.8.27-30 2014.10.18-19 2014.10.27-31  2014.12.5	客員教授 Susan Bridges 先生招聘 特任教授 Phillip Evans 先生招聘 Trevor Gibbs 先生招聘 第 51 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医科歯科大） 第 15 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ（秋田大） 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ スタッフ研修（ヘルシンキ大学） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ（九州大） 第 1 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大） 大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」	医学教育学会 伴信太郎理事長 46 回医学教育学会（和歌山医大） 日本専門医機構設立 医学教育専門家制度発足 デング熱 御嶽山噴火
<b>2015</b>  2015.1.31-2.1 2015.5.13-15 2015.6.6-7  2015.8.7-9 2015.10.17-18 2015.11.2-6	<b>教育関係共同利用拠点認定（第 2 期）</b> フェローシップ・アソシエイト制度開始 客員教授 Daisy Rotzoll 先生招聘 医学教育賞牛場賞（高橋優三） 医学教育賞日野原賞（鈴木康之） 第 55 回医学教育セミナーとワークショップ 第 16 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ（埼玉医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2015 開催 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ（香川大） 第 2 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	47 回医学教育学会（新潟大） 岐阜大学医学教育分野別評価トライアル受審 大村智、梶田隆章 ノーベル賞

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
<b>2016</b> 2016.1.23-24 2016.5.11-13 2016.5.21-22  2016.8.19-21 2016.10.22-23	客員教授 Yvonne Steinert 先生招聘 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ 第 17 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2016 開催 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ 第 62 回医学教育セミナーとワークショップ（兵庫医大）	医学教育学会 鈴木康之理事長 48 回医学教育学会（大阪医大） 東北医科薬科大学医学部新設 熊本地震
<b>2017</b> 2017.1.27-29 2017.5.10-12 2017.4.22-23 2017.7.21-23  2017.10.14-15 2017.10.23-27	客員教授 Linda Snell 先生招聘 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ 第 18 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 64 回医学教育セミナーとワークショップ（昭和医大） 第 65 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 66 回医学教育セミナーとワークショップ（岡山大） 第 3 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	49 回医学教育学会（札幌医大） 日本医学教育評価機構設立 岐阜大学医学教育分野別評価認定 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 Post-CC OSCE トライアル開始 国際医療福祉大学医学部新設
<b>2018</b> 2018.1.27-28 2018.6.1-3 2018.6.2-3  2018.8.18-19 2018.11.3-4	客員教授 Joyce Pickering 先生招聘 第 67 回医学教育セミナーとワークショップ（早稲田大） 第 19 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 68 回医学教育セミナーとワークショップ（第 6 回日本シミュレーション医療教育学会併催） フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 69 回医学教育セミナーとワークショップ（信州大） 第 70 回医学教育セミナーとワークショップ（自治医科大）	医学教育学会 鈴木康之理事長 50 回医学教育学会（東京医科歯科大） 医師国家試験問題 400 問へ 医行為に関する研究班（門田班） 本庶佑 ノーベル賞 新専門医制度施行 医学部不適切入試問題
<b>2019</b> 2019.1.25-27 2019.5.24-26 2019.5.25-26  2019.7.28 2019.8.9-10 2019.8.29-31 2019.10.12-13  2019.10.28-11.1	医療者教育学専攻修士課程認可（文科省設置審） Jennifer Cleland 先生招聘 第 71 回医学教育セミナーとワークショップ 第 20 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 72 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2019 開催 セミナー「格差時代の医学部入学を考える」 第 73 回医学教育セミナーとワークショップ（愛知学院大） スタッフ研修（ライブツィエ大学） 第 74 回医学教育セミナーとワークショップ（国際医療福祉大） （台風により中止） 第 4 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 Teaching in the Clinical Setting（マギル大）	51 回医学教育学会（京都府立医大） 平成から令和へ 働き方改革 ラグビー-W 杯 吉野彰 ノーベル賞
<b>2020</b>  2020.1.25-26 2020.5.22-24  2020.5.23-24 2020.10.2-4	<b>医療者教育学専攻修士課程開講</b> <b>教育関係共同利用拠点認定（第 3 期）</b> フェローシッププログラム：メドギフト 2020 開催 第 75 回医学教育セミナーとワークショップ 第 21 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修（COVID-19 パンデミックにより中止） 第 76 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） 第 77 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ）	医学教育学会 小西靖彦理事長 52 回医学教育学会（鹿児島大） COVID-19 パンデミック 東海国立大学機構設立 はやぶさ 2 帰還 東京オリンピック延期

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
<b>2021</b> 2021.1.22-23 2021.5.21-23  2021.11.13-14	<b>医学教育開発研究センター20周年</b> フェローシッププログラム：メドギフト 2021 開催 第 78 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 79 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 22 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 3 期拠点事業教職協働スターターキット開講 第 80 回医学教育セミナーとワークショップ（with 聖隷浜松病院）	53 回医学教育学会（自治医大） COVID-19 パンデミック 新型コロナウイルス ワクチン接種開始 東京オリンピック開催 真鍋叔郎 ノーベル賞 医学教育分野別評価 2 巡回受審
<b>2022</b> 2022.1.22-23 2022.3.18 2022.3.25 2022.5.19-21  2022.10.28-29	フェローシッププログラム：メドギフト 2022 開催 医学教育賞日野原賞（西城卓也） 医学教育賞懸田賞（今福輪太郎） 第 81 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） MEDTaalk プラス：『さまざまな「学習・学修できない」と、その支援』 医療者教育学修士 一期生修了 第 82 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 23 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 83 回医学教育セミナーとワークショップ（関西医科大）	医学教育学会 小西靖彦理事長 54 回医学教育学会（群馬大） 北京オリンピック開催 ロシア ウクライナ侵攻 円急落 サッカー-W 杯
<b>2023</b> 2023.1.26-28  2023.3.25 2023.5.24-26 2023.5.24-25 2023.6.1  2023.10.6-7	第 84 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） フェローシッププログラム：メドギフト 2023 開催 医療者教育学修士 二期生修了 第 85 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 24 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 5G を活用した遠隔授業の実験が電波利用を通じた医療分野の発展に貢献したとして、東海情報通信懇談会において「東海情報懇談会 会長賞」を受賞 第 86 回医学教育セミナーとワークショップ（富山大）	55 回医学教育学会（長崎） 侍ジャパン、WBC で世界一に こども家庭庁・こども基本法新設 世界の総人口が 80 億人を超える COVID-19 「5 類」へ移行 生成 AI の高度化と普及が急速に進む 英国チャールズ国王戴冠式 将棋 藤井聡太 史上初八冠に
<b>2024</b>  2024.1.18-20  2024.3.25 2024.4.1  2024.5.22-24 2024.5.22-24 2024.10.26	医学教育賞懸田賞（川上ちひろ・野村理） 高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）小児希少難病に関する研究力向上に向けた医療者サポート事業 が採択される 第 87 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） フェローシッププログラム：メドギフト 2024 開催 医療者教育学修士 三期生修了 岐阜大学大学院医学系研究科寄附講座 地域共創飛騨高山医療者教育学講座 開設 第 88 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 25 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 89 回医学教育セミナーとワークショップ（愛知医科大）	医学教育学会 錦織宏理事長 能登半島地震 最大震度 7 JAXA 探査機 月面着陸に成功 H3 ロケット、初めて打ち上げ成功 北陸新幹線 金沢―敦賀間が延伸開業 円安・ドル高が一層進む 56 回医学教育学会（帝京大） 新紙幣発行 第 33 回夏季バリオ輪開催 ノーベル平和賞に被団協
<b>2025</b> 2025.1.23-24 2025.3.25	第 89 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 医療者教育学修士 四期生修了	第 47 代米国大統領にドナルド・トランプ氏就任 ソフトバンクと OpenAI 社が日本で合併会社設立 日本の出生数が過去最少を更新 Microsoft 社「Skype」を終了

## 岐阜市内地図



## 医学教育開発研究センター 2024年度年報

発行 令和7年5月

編集

医学教育共同利用拠点

岐阜大学 医学教育開発研究センター

〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1

Medical Education Development Center (MEDC), Gifu University

Yanagido 1-1, Gifu 501-1194, JAPAN

TEL: +81 58 230 6470 FAX: +81 58 230 6468 E-mail: medc@t.gifu-u.ac.jp

Homepage: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>

発行所 株式会社ダイキュー

〒503-2215 岐阜県大垣市赤坂大門3丁目61-1

